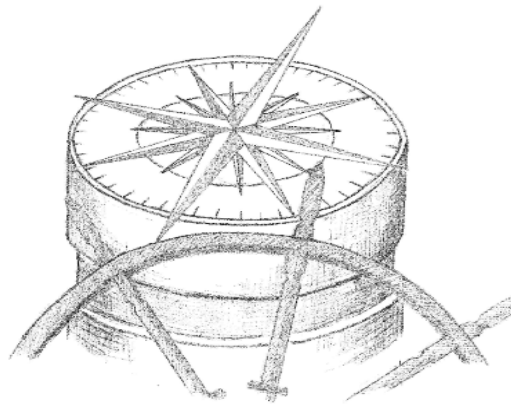


平成27年度
全国学力・学習状況調査
始良・伊佐地区結果分析



平成27年10月
始良・伊佐教育事務所

目 次

始良・伊佐地区の児童生徒の学力・学習状況等の実態及び今後の取組

1	本地区の学力に関する実態（教科に関する調査から）	1
2	本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態（児童生徒質問紙から）	2
3	本地区の学校における授業等に関する実態（学校質問紙・児童生徒質問紙から）	3
4	本地区における学力向上に関する方向性	4
5	各学校における今後の取組～授業改善の視点から～	5
6	教育事務所における今後の取組	6

【資料】全国・県・地区における正答数別分布

1	小学校の結果	8
2	中学校の結果	9

【資料】設問別調査結果

1	小学校国語A	10
2	小学校国語B	11
3	中学校国語A	12
4	中学校国語B	14
5	小学校算数A	15
6	小学校算数B	16
7	中学校数学A	17
8	中学校数学B	19
9	小学校理科	20
10	中学校理科	22

【資料】学習状況調査等分析資料

1	本地区の学習状況等に関する実態 児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった項目から	24
2	本地区の学校における授業等に関する実態 学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった項目から	31

【資料】教育事務所の取組

1	始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト実施状況及び計画	39
2	「教師をやる気にさせる声掛け集」概要	40

始良・伊佐地区の児童生徒の学力・学習状況等の実態及び今後の取組

1 本地区の学力に関する実態（教科に関する調査から）

(1) 各教科の平均正答率から

小学校

教科	国語		算数		理科
種別	A	B	A	B	AB
地区	67.0	65.1	75.1	41.8	63.3
県	68.4	65.8	75.9	42.5	63.4
対県比	-1.4	-0.7	-0.8	-0.7	-0.1
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
対全国比	-3.0	-0.3	-0.1	-3.2	2.5

中学校

教科	国語		数学		理科
種別	A	B	A	B	AB
地区	74.7	66.0	63.5	41.9	54.2
県	73.3	64.1	61.7	39.4	51.9
対県比	1.4	1.9	1.8	2.5	2.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
対全国比	-1.1	0.2	-0.9	0.3	1.2

- 小学校における学力は、理科で全国平均を上回ったが、それ以外の教科では「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題のいずれにおいても、全国・県平均を下回っている。A問題では特に、国語が全国平均を3.0ポイント下回り、B問題では特に、算数が全国平均を3.2ポイント下回るなど、課題が大きくなっている
- 平成26年度調査において改善が見られた中学校における学力は、全教科A問題、B問題ともに県平均を上回った。特に、「活用」に関するB問題については国語、数学、いずれにおいても全国平均を上回り、更なる改善が見られた。特に数学Bにおいては、県平均を2.5ポイント上回るなど、大きな成果が見られた。また、理科においても全国平均を1.2ポイント、県平均を2.3ポイント上回るなど、顕著な成果を上げている。

(2) 正答数分布グラフから

【P 8～9 参照】

- 小学校における正答数分布グラフから本地区と全国を比較すると、本地区においては、全ての教科・種別において上位層が少なく、中位層が多くなっていることが分かる。更に、国語A、国語B、及び算数Bにおいては、下位層の児童の割合も若干高くなっていることが分かる。
- 中学校における正答数分布グラフから本地区と全国を比較すると、本地区においては、国語A、数学A、及び数学Bにおいて上位層が少なく、中位層が多くなっていることが分かる。国語Bと理科においては、上位層の生徒の割合は県平均より高く、全国平均とほぼ同程度であることが分かる。
- 小学校においては、下位の児童の割合が若干高く、中位層の児童が学習集団の大部分を占めていることから、定着の不十分な児童への丁寧できめ細かな指導を取り入れるなど、基礎的・基本的事項の定着を図る指導の徹底を図ると同時に、習得した知識・技能を活用する力を高め、定着が十分に図られている児童の学力を更に引き上げるような、より個に応じた指導の工夫が必要であることが分かる。中学校においては、下位の生徒の割合は比較的低く、中位層の生徒が学習集団の大多数を占めていることから、これまで同様に基礎的・基本的事項の定着を図る指導をベースにしながらも、活用力の向上に重点をおいた指導を更に推進し、全体としての学力を引き上げることが有効であると考えられる。

(3) 設問別調査結果から

【P 10～22参照】

- 設問別調査結果からは、「根拠を明らかにして説明する力を要する問題」、「対象となる事象を関連付けて説明する力を要する問題」、「論理的思考を要する問題」、「目的に応じて文章をつくる力を要する問題」、「課題解決のために必要なデータを選び出す力を要する問題」等における正答率が全国と比較すると低くなっていることが分かる。
- 小学校国語では、A問題、B問題ともに、多くの設問で全国平均を下回っている。特に、「文の中における主語を捉えること」「具体的な事例を挙げて説明する文章を書くこと」「目的や意図に応じ、記事に見出しをつけること」等の問題における差が大きくなっている。
- 中学校国語では、A問題において、全国平均を下回っている設問が多く、B問題においては、全国平均を下回る設問数よりも上回る設問数の方が多くなっている。全国平均を大きく下回っている設問としては、「表現の技法について理解していること」「伝えた

い事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」等の問題が挙げられる。

- 小学校算数では、A問題、B問題ともに、多くの設問で全国平均を下回っているが、B問題において全国平均との差が大きくなっている。特に、「切り上げた場合の見積りの結果を基に、見積りに達しているかについて判断すること」「示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること」等の問題における差が大きくなっている。
- 中学校数学では、A問題において、全国平均を下回っている設問が多く、B問題においては、全国平均を下回る設問数よりも上回る設問数の方が多くなっている。全国平均を大きく下回っている設問としては、「一次関数の表からxとyの関係を式で表すこと」「証明を振り返り、新たな性質を見出すこと」等の問題が挙げられる。
- 小学校理科では、全国平均を下回っている設問もあるが、上回っている設問数の方が多くなっている。全国平均を大きく下回っている設問としては、「磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに運用すること」「星座の動きを捉えるための適切な記録方法」等の問題が挙げられる。
- 中学校理科においても、全国平均を上回っている設問数の方が多くなっている。全国平均を大きく下回っている設問としては、「凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘すること」等の問題が挙げられる。
- 無回答率は、全教科・種別において、全国・県よりも低く、例えば、小学校国語Bの「文章と図とを関連付けて自分の考えを書く」問題等、全国的に無回答率が非常に高い問題に対しても、最後まであきらめず粘り強く取り組んだ姿勢がうかがえる。

(4) 実態の要因として考えられること

- 「知識」に関する問題の定着が概ね図られているのは、教員が児童生徒に対し、基礎的・基本的な知識や技能を習得させることを意識した授業に力を入れて取り組んだ成果として捉えられる。
- 上位層が少なく、中位層が大多数を占めているのは、児童生徒に達成させようとする目標が「基礎的・基本的な知識や技能の習得」で留まり、「それらを活用する」レベルまで高まっていないということが要因であると考えられる。また、授業の内容については、児童生徒の学力をある一定のレベルまで高める授業にはなっているものの、「知的好奇心や探究心に支えられた主体的な学習」、「思考力・判断力・表現力等を駆使する授業」になりきれていないこともその要因として考えられる。その結果として、児童生徒の可能性を伸ばしきれていない実態につながっているものと考えられる。

2 本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態（児童生徒質問紙から）

(1) 全体的な傾向

【P24～30参照】

学習状況等については、児童生徒の自己肯定感が高いこと、将来の夢や目標をしっかりと持っていること、家庭学習の状況がよいこと、読書が好きで学校図書館の利用頻度が高いこと等、全体的に、真面目にコツコツと取り組む姿勢がうかがえる。一方、自分の考えや意見を発表することが得意であると感じている児童生徒の割合は、平成26年度調査と比較すると高くなってきているが、依然として全国平均よりは低くなっていることが分かる。

(2) 全国との比較で特に差が大きかった項目

※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの回答の割合が全国と比較して差が大きかった項目（○は大きく上回ったもの、▲は大きく下回ったもの）

- 自分にはよいところがあると思いますか。
- 将来の夢や目標を持っていますか。
- 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
- 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
- 家で、学校の宿題をしていますか。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。
- 読書は好きですか。
- これまでに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されたと思いますか。
- これまでに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
- これまでに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていったと思いますか。
- ▲ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。

3 本地区の学校における授業等に関する実態（学校質問紙・児童生徒質問紙から）

(1) 全体的な傾向

【P31～38参照】

学校質問紙調査からは、学習目標の提示がしっかりとされていること、学校図書館の計画的な活用等が充実しており、全体的に、児童生徒同様に、教員も真剣に授業に取り組んでいる様子がうかがえる。

しかし、「言語活動に重点を置いた指導計画の作成状況や、授業への位置付け」、「学習指導と評価計画の作成に当たっての教職員同士の協力」「学校全体の学力傾向や課題に関する全教職員間での共有」等、多くの項目において、本地区では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の割合が、全国平均と比較すると低い状況が見られる。

これは、本地区の学校において、「個々の教員は、真剣に授業に取り組んでいるものの、学校全体としての組織的な授業改善や学力向上に向けての取組については、全国と比較すると、まだ十分に行われている状況にはない」ことを表していると考えられる。

学校質問紙と児童生徒質問紙の回答の比較に関しては、平成26年度調査で、授業に対する教員と児童生徒の意識のずれの大きさが見られたが、今年度の調査では、両調査結果における大きな差は見られなかった。しかし、児童生徒の学習状況がたいへんよい状況にある一方で、学校の取組については、多くの項目で全国平均を下回っている状況があることは、「学校が、児童生徒の可能性をまだ十分に伸ばし切っていない」ことの表れであるとも考えられる。

小中連携の状況については、本地区では、全国と比較しても、よく行われている状況にあることが分かった。中学校区を中心として、教科の指導内容や指導方法等について共同で研究を推進するなど、今後も更なる連携を深めていくことが大切である。

(2) 全国との比較で特に差が大きかった項目

※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの回答の割合が全国と比較して差が大きかった項目（○は大きく上回ったもの、▲は大きく下回ったもの）

《小中共通》

○ 授業の冒頭で、目標(めあて・ねらい)を示す活動を取り入れましたか。

○ 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。

《中学校のみ》

○ 平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか。

《小中共通》

▲ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

▲ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業等で行いましたか、

▲ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。

▲ 言語活動に重点をおいた指導計画を作成していますか。

▲ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員音間で話し合ったり、検討したりしていますか。

▲ 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。

▲ 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか。

▲ 学習指導と学習評価の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか。

▲ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

▲ 教員が、他校や外部の研修期間などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。

▲ 教職員は、校外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

4 本地区における学力向上に関する方向性

(1) 本地区の児童生徒の学力に関する実態から

- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

＜そのために必要なことは・・・＞

- ◇ 下位層へのきめ細かな手立てを継続的に講じながら、中位層への手立てを授業展開の中に位置付け、下位層、中位層の児童生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る。

＜そのために授業改善の基本方針はどうあるべきか・・・＞

目標水準の引き上げ

- ・ 児童生徒に達成させる学習目標の質を、基礎的・基本的な知識や技能を活用できるところまで高める。

学習活動における要求水準の引き上げ

- ・ 授業で取り扱う教材や学習活動の質を、知識などの教え込みに偏ることなく、児童生徒の主体的な探究、気付きを引き出すものへ高める。

(2) 本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態から

- 本地区の児童生徒のよさを生かし、可能性を最大限に伸ばす。

より高い目標の設定

- ・ 夢や目標に対する意識、自己肯定感が高い。
→ 学習においても、より高い目標を持たせて取り組ませることにより更なる学習意欲の高揚を図り、学力向上を目指す。

家庭学習の質的向上

- ・ 家庭学習への取組がよい。
→ 学習事項と家庭学習の内容の関連等を見直すなど、家庭学習の内容、質の更なる充実を図り、学習事項の確実な定着を目指す。

読解力のレベルアップによる思考力・判断力等の向上

- ・ 読書が習慣化し、書に親しむ機会が多い。
→ 授業において、より深い読解や、発見的な読みなどにチャレンジさせ、さらに高いレベルまで読解力を高め、思考力・判断力等の向上を目指す。

- 本地区の児童生徒の課題を各学校で共有し、解決のための対策を講じる。

主体的な発表・交流活動の促進による表現力等の向上

- ・ 自分の考えや意見を説明したり、発表したりすることへの苦手意識が強い。
→ 授業の中に、自分の考えや意見を発表したり、交流したりする活動を意図的に設定し、主体的に取り組ませ、表現力等の向上を目指す。
※ 児童生徒質問紙では、「これまでに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の項目において、小・中ともに80%以上の児童生徒が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答している。
しかし、その一方で、依然として自分の考えや意見の説明や発表には苦手意識を持っている児童生徒が多く、学力検査の結果からも「筋道立てて考え、自分の考えを表現すること」に関する問題の正答率は低い状況にある。
その要因として、「話し合いはしているが、話し合ったことが児童生徒個々の思考の深まりにつながっていないこと」等が考えられる。話し合いの目的、内容については再考が必要であり、児童生徒の多様な考えを交流し、個々の思考を深めるような効果のある話し合いを取り入れることが必要である。

(3) 本地区の学校における授業等に関する実態から

児童生徒の学力の実態及び、各学校の学力向上への取組の実態を踏まえるとともに、「目標水準の引き上げ」「学習活動の要求水準の引き上げ」の基本方針に基づき、以下の視点から、学校としての組織的な授業改善を図る。

- ◇ 児童生徒が自ら考え活動する時間の確保と活動内容の工夫
- ◇ 児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問や指導の工夫
- ◇ 児童生徒の思考のプロセスを重視した学習過程の工夫
- ◇ 児童生徒相互の考えや意見の交流を図るための働きかけ
- ◇ 指導計画における言語活動の重点化
- ◇ 習熟の程度に応じて発展的な課題に取り組む時間の確保と指導の工夫

5 各学校における今後の取組～授業改善の視点から～

(1) 個々の教職員の指導力・授業力向上へのアプローチ

- ア 管理職による授業参観及び指導の充実
 - (ア) 各教職員の授業における課題の明確化と具体的な解決策の提示
 - (イ) 各教職員の取組に即した継続的なフィードバックと意欲付け
 - ※ 学力向上指針「学びの羅針盤」(県教育委員会)、「教師をやる気にさせる声掛け集～授業を変えたい、そのとき管理職は～」(始良・伊佐教育事務所)等の有効活用
- イ 経験年次別研修の確実な実施
 - (ア) 対象者の年間を通じた計画的・継続的な研修の完全実施
 - (イ) 対象者以外の教職員の指導力向上にもつなげる手だて
- ウ かがしま学力向上プログラムの有効活用
 - (ア) 全中学校教職員による校内研究授業・授業研究の実施（3年間のうちに1回以上）
 - (イ) 各教職員の実施状況把握と実施予定者の確実な実施
- エ 教育論文・実践記録執筆の奨励と計画的指導
 - ※ 研究主題等の早期設定と計画的・継続的实践に基づく執筆の奨励

(2) 教職員全体の指導力・授業力向上へのアプローチ

- ア 全教職員による共通理解・共通実践の強化
 - (ア) 児童生徒の学力・学習状況に係る課題の明確化
 - (イ) 教職員の授業実践上の課題の明確化
 - (ウ) 課題解決のための具体的な改善策の共通理解と確実な共通実践
 - ※ 学年部・教科部等を中心とした組織的な取組の強化
- イ 校内研修の活性化
 - (ア) ワークショップ型授業研究の導入等による指導力向上に直結する校内研修の工夫
 - (イ) 各種研修資料の効果的・継続的活用

(3) 校外研修・研究公開等への参加奨励によるアプローチ

- ア 県総合教育センター事業
 - (ア) 短期研修講座，土曜講座への積極的な申込と来所研究の活用
 - (イ) 研修事項還元の場の確実な設定
 - ※ 総合教育センター基本方針「学びの一步，還元の二歩」
- イ 平成27年度管内の研究協力校舎等の研究公開（研究発表会）日程

期日(曜日)	研究協力校名	教科・領域等	指定区分
10月23日(金)	霧島市立陵南幼稚園	幼稚園教育	県
10月27日(火)	始良市立重富小学校	学力向上（算数科）	地区
10月30日(金)	霧島市立青葉小学校	体力向上	地区
11月17日(火)	始良市立始良小学校	学力向上（算数科）	地区
11月18日(水)	霧島市立隼人中学校	租税教育	県
11月19日(木)	伊佐市立山野小学校	学力向上（国語科）	地区
11月27日(金)	霧島市立牧之原中学校	学力向上（全教科）	地区
1月22日(金)	湧水町立栗野小学校	学力向上（国語科）	地区
2月10日(水)	伊佐市立南永小学校	複式，小規模校教育	地区

(4) 他校との連携によるアプローチ

- ア 中学校区を中心とする小・中連携の継続的な実施
 - (ア) 児童生徒の学力・学習状況に関する情報交換
 - (イ) 児童生徒の学力の実態に基づく共通実践事項の設定・見直し
 - (ウ) 小・中教職員による共同研究の充実
 - ※ 相互授業参観・授業研究の場の設定
- イ かがしま学力向上プログラムの有効活用
 - (ア) 全中学校における授業公開の実施（3年間のうちに1回以上）
 - (イ) 積極的な授業公開による教職員相互の指導力向上
- ウ 校種間連携に係る研究会等への積極的な参加
 - (ア) 県立高校進学支援事業「授業力向上支援プログラム」（県立高校で実施）
 - (イ) 幼・小連携に係る各種研究会

6 教育事務所における今後の取組

(1) 始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト

【P 39参照】

ア 目的

小・中学校の教員によるコアティーチャープロジェクトチームを設置し、思考力・判断力・表現力等を問う単元・領域別の評価問題の作成や、モデル授業の構築に取り組むことにより、より質の高い指導力をもつ教員の育成を図るとともに、その成果を「かごしま学力向上支援Webシステム」により県下の小・中学校で共有し、授業改善による児童生徒の学力向上を図る。

イ 事業内容

- (ア) プロジェクト研究推進員の委嘱及びプロジェクト研究会の実施
- (イ) 思考力・判断力・表現力等を問う単元・領域別の評価問題の作成
- (ウ) 評価問題に関連した具体的なモデル授業の構築
- (エ) 授業力向上研究会「始良・伊佐スキルアップセミナー Part 3」の開催による研究成果の還元

※ 平成28年1月20日（水）始良市始良公民館にて開催

- (オ) 「かごしま学力向上支援Webシステム」による単元・領域別評価問題の配信
- (カ) 地区実践事例集「緑の教育『始良・伊佐ティーチング・サポート』」（仮称）の刊行によるモデル授業に係る資料等の提供

(2) 授業サポートプロジェクト（義務教育課・市町教育委員会との連携）

ア 目的

中学校の国語又は数学に関する指導法充実のため、指導法充実拠点校や推進校を指定し、義務教育課、教育事務所、市町村教育委員会指導主事等の合同チームによる指定校へのサポートを通して、授業づくりの課題等を共有し、学校や教員のニーズに応じた実践的な支援を行う。

イ 事業内容

- (ア) 授業ガイダンス（授業づくりの相談）の充実
- (イ) 授業参観、義務教育課指導主事によるTT及びモデル授業等の支援
- (ウ) 問題作成の支援（ポストテストや定期考査等の問題づくりの支援）

(3) 「教師をやる気にさせる声掛け集

～授業を変えたい、そのとき管理職は～」の活用

【P 40参照】

「授業を構想・実践する力」「安心して学べる集団づくり」「教師としての基礎的な資質」の3視点から、気になる授業の場面と状況に応じて、段階的に授業者にアプローチする管理職のためのマニュアルを刊行し、各学校での活用を促進し、教員の授業力向上に資する。

(4) 各種研修資料の効果的・継続的活用の促進

計画学校訪問や各種研修会等において、県教育委員会作成の学力向上指針「学びの羅針盤」や始良・伊佐教育事務所作成の教育実践事例集「緑の教育」等の資料の活用を促進し、教員の授業力向上に資する。

(5) 校内研修等への指導主事等の積極的な派遣及び指導助言

県・地区指定研究協力校をはじめ、管内の小・中学校の校内研修等に指導主事等を積極的に派遣し、思考力・判断力・表現力等の向上を目指す指導の在り方等について継続的に各学校への指導助言を行う。

始良・伊佐地区の学力向上対策

子どもたちの無限の可能性を最大限に伸ばす授業を！～まだまだ伸びる始良・伊佐の子どもたち！～

教育事務所の取組

各種研修資料の効果的・継続的活用の促進

- ・学力向上指針「学びの羅針盤」
- ・管理職用授業参観マニュアル「教師をやる気にさせる声掛け集～授業を変えたい、そのとき管理職は～」
- ・教育実践事例集「緑の教育」



研究協力校への支援

- ・共同研究者の立場から、計画的・継続的なサポート

計画学校訪問

- ・学校の課題の明確化と具体的解決策の提示

授業サポートプロジェクト

- ・義務教育課・教育事務所と市町村教委がチームで学校訪問を行い授業づくりを直接支援⇒県全体の授業力の底上げ

コアティーチャーネットワークプロジェクト

- ・思考・表現に特化した評価問題作成とモデル授業の構築⇒核となる教員のスキルアップと研究成果の還元

事務所主催各種研修会

- ・参加者のニーズに応じた課題解決につながる研修内容の工夫

授業改善のための視点

- 子どもたちが自ら考え活動する時間の確保と活動内容の工夫
- 子どもたちの様々な意見や考えを引き出す発問や指導の工夫
- 子どもたちの思考のプロセスを重視した学習過程の工夫
- 子どもたち相互の考えや意見の交流を図るための働き掛け
- 指導計画における言語活動の重点化
- 習熟の程度に応じて発展的な課題に取り組む時間の確保と指導の工夫

子どもたちの学力の状況

学力向上の方向性

下位層の子どもへの手立てだけでなく、中位層の子どもへの手立ても授業展開に位置付け、中位層の子どもたちの学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を目指す

【目標水準の引き上げ】【学習活動における要求水準の引き上げ】

求められる力

- ・根拠を明らかにして説明する力
- ・事象を関連付けて説明する力
- ・考えたことを筋道立てて説明する力
- ・目的に応じて文章をつくる力
- ・データから必要なものを選び出す力

成果⇒基礎的・基本的事項の定着が図られている

課題⇒学習集団の上位層の子どもが少ない

身に付けた知識・技能を活用する力が十分に高まっていない

子どもたちの学習の状況

子どもたちのよさを最大限に伸ばす方策

- ・より高い目標の設定
- ・家庭学習の質的向上
- ・読解力のレベルアップによる思考力・判断力等の向上
- ・主体的な発表・交流活動の促進による表現力等の向上

始良・伊佐の子どもたちのよさ

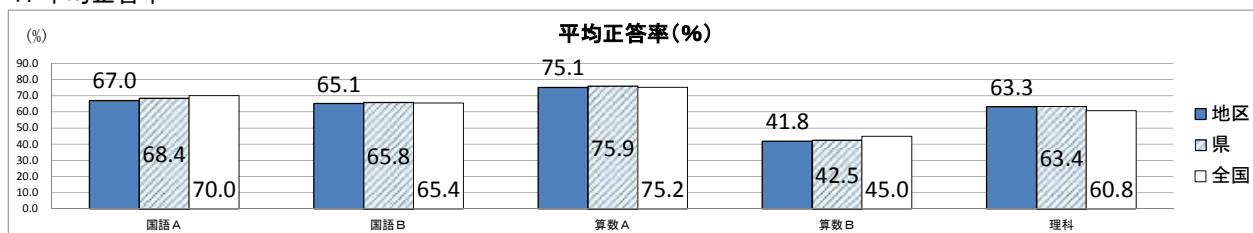
- ・夢や目標に対する意識が高い
- ・自己肯定感が高い
- ・家庭学習への取組がよい
- ・真面目に授業に取り組む姿勢がある
- ・読書が習慣化している
- ・最後まで諦めずに、粘り強く取り組もうとする



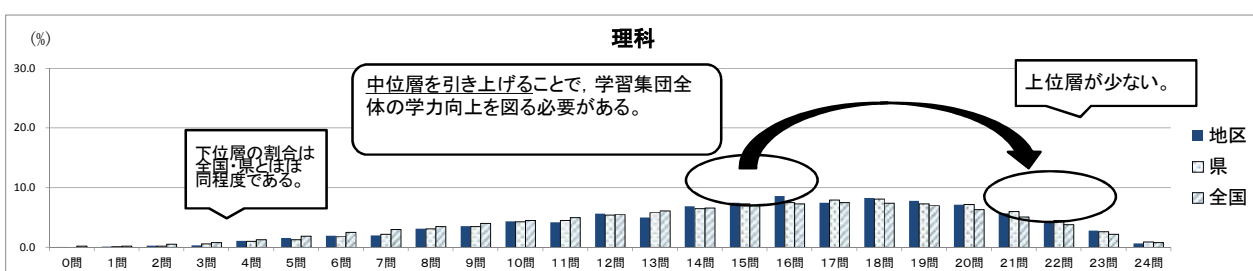
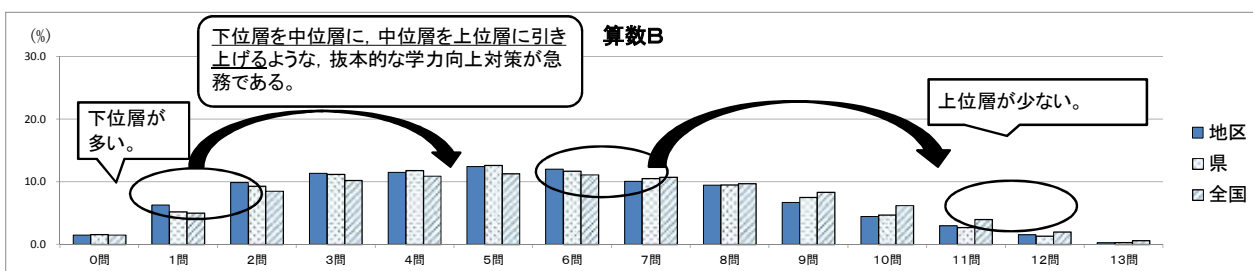
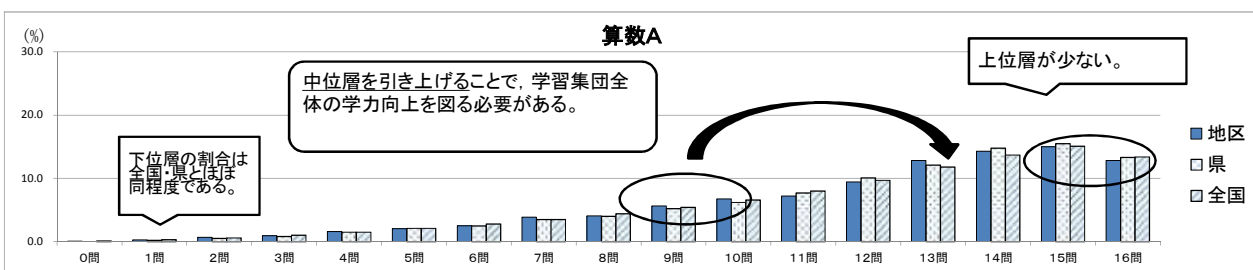
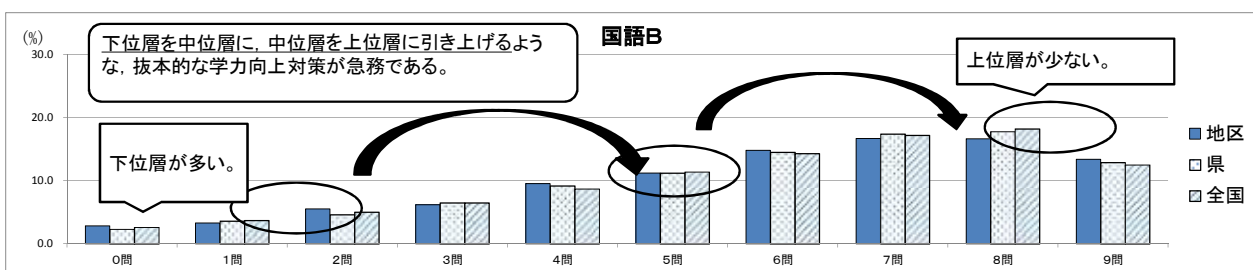
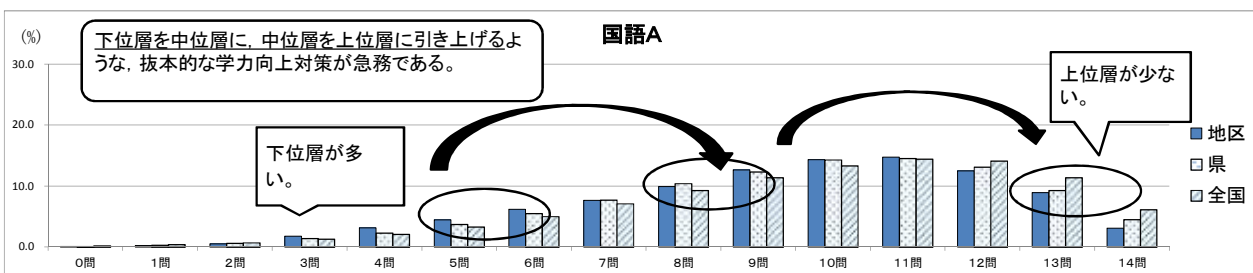
H27全国学力・学習状況調査 全国・県・地区における正答数分布の比較から(小学校)

始良・伊佐教育事務所

1. 平均正答率



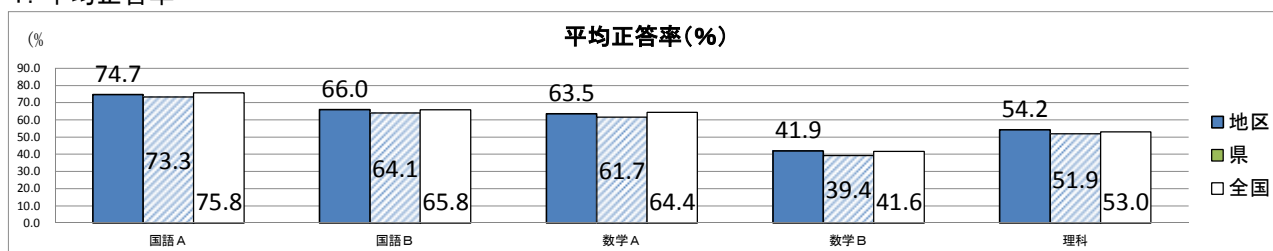
2. 正答数分布グラフ



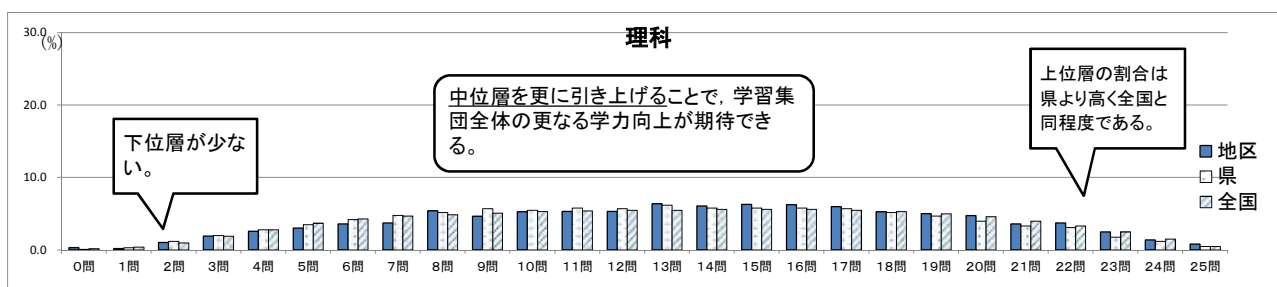
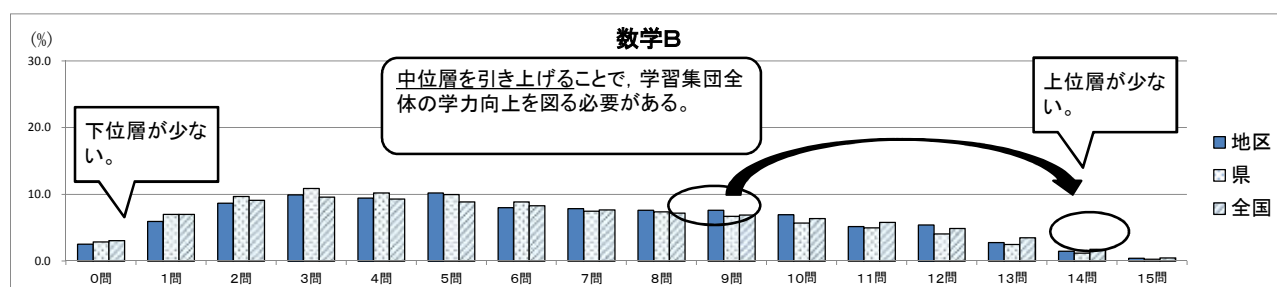
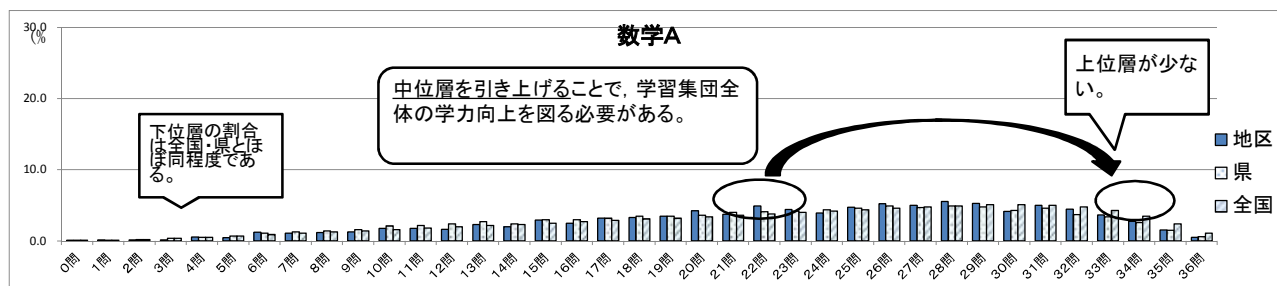
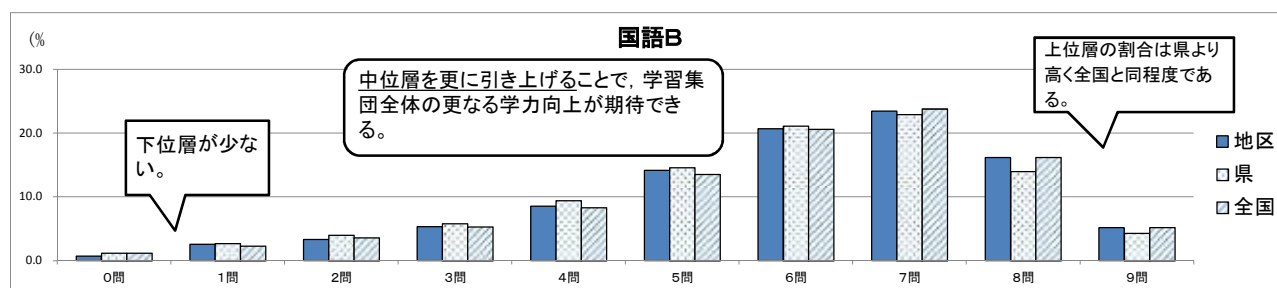
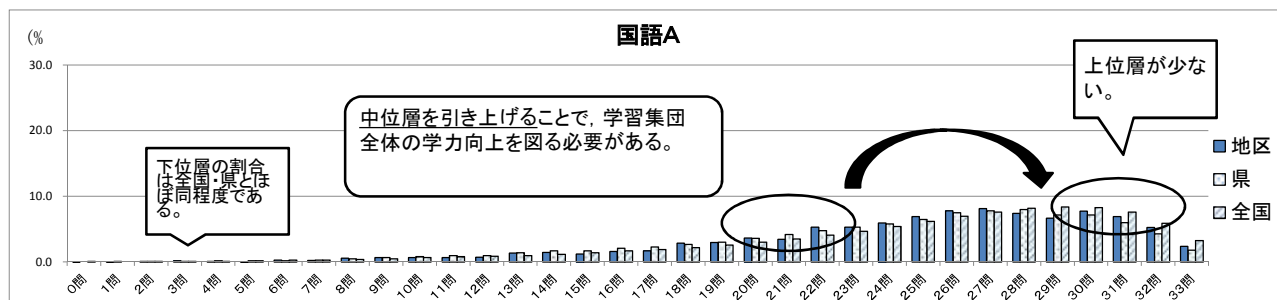
H27全国学力・学習状況調査 全国・県・地区における正答数分布の比較から(中学校)

始良・伊佐教育事務所

1. 平均正答率



2. 正答数分布グラフ



設問別調査結果 [小学校国語A：主として知識]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数			始良・伊佐地区 2,237					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)					
全体			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
			14	67.0	68.4	-1.4	70.0	-3.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	49.3	50.2	-0.9	53.0	-3.7	
	書くこと	1	81.7	83.4	-1.7	86.0	-4.3	
	読むこと	4	54.2	55.3	-1.1	55.2	-1.0	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	74.1	75.5	-1.4	77.2	-3.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0						
	話す・聞く能力	1	49.3	50.2	-0.9	53.0	-3.7	
	書く能力	1	81.7	83.4	-1.7	86.0	-4.3	
	読む能力	4	54.2	55.3	-1.1	55.2	-1.0	
	言語についての知識・理解・技能	9	74.1	75.5	-1.4	77.2	-3.1	
問題形式	選択式	7	62.8	63.8	-1.0	66.4	-3.6	
	短答式	7	71.3	73.0	-1.7	73.7	-2.4	
	記述式	0						

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1-1	漢字を読む (友人を家に招く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	97.2	97.2	0.0	97.5	-0.3	0.5	0.6	-0.1	0.7	-0.2
1-2	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)		97.5	97.3	0.2	96.0	1.5	0.4	0.5	-0.1	0.9	-0.5
1-3	漢字を読む (全員がすぐに承知した)		88.4	89.3	-0.9	92.5	-4.1	3.0	2.7	0.3	2.5	0.5
1-1	漢字を書く (シャワーをあびる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	52.0	58.7	-6.7	58.4	-6.4	18.0	15.3	2.7	17.2	0.8
1-2	漢字を書く (鳥のすを観察する)		75.8	74.9	0.9	76.5	-0.7	5.0	4.6	0.4	5.7	-0.7
1-3	漢字を書く (びょういんに行く)		72.4	74.2	-1.8	74.9	-2.5	4.3	3.6	0.7	4.7	-0.4
2-1	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える	37.1	40.2	-3.1	53.1	-16.0	0.5	0.3	0.2	0.6	-0.1
2-2	文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える	70.6	71.1	-0.5	71.7	-1.1	0.2	0.3	-0.1	0.5	-0.3
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	49.3	50.2	-0.9	53.0	-3.7	0.2	0.2	0.0	0.5	-0.3
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く	81.7	83.4	-1.7	86.0	-4.3	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
5-1	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるままとりを選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	59.7	60.2	-0.5	59.5	0.2	1.0	0.8	0.2	1.6	-0.6
5-2	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く		15.9	19.2	-3.3	19.8	-3.9	4.8	4.6	0.2	7.7	-2.9
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	登場人物の相互関係を捉える	65.3	65.5	-0.2	67.5	-2.2	1.7	1.4	0.3	2.6	-0.9
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る	75.8	76.3	-0.5	73.9	1.9	2.5	2.7	-0.2	4.3	-1.8

設問別調査結果 [小学校国語B：主として活用]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数		始良・伊佐地区 2,238					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
全体		9	65.1	65.8	-0.7	65.4	-0.3
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0					
	書くこと	6	61.4	61.8	-0.4	61.1	0.3
	読むこと	6	67.9	68.7	-0.8	68.1	-0.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0					
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	57.1	57.3	-0.2	55.4	1.7
	話す・聞く能力	0					
	書く能力	6	61.4	61.8	-0.4	61.1	0.3
	読む能力	6	67.9	68.7	-0.8	68.1	-0.2
	言語についての知識・理解・技能	0					
問題形式	選択式	3	66.0	67.1	-1.1	68.6	-2.6
	短答式	2	79.8	80.9	-1.1	80.8	-1.0
	記述式	4	57.1	57.3	-0.2	55.4	1.7

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1ー	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	72.4	73.1	-0.7	74.6	-2.2	0.5	0.4	0.1	0.5	0.0
1二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	67.6	68.8	-1.2	70.8	-3.2	0.7	0.6	0.1	0.6	0.1
1三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	38.7	38.4	0.3	34.7	4.0	2.1	2.4	-0.3	4.0	-1.9
2ーア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える	74.1	75.2	-1.1	75.5	-1.4	2.4	2.8	-0.4	3.6	-1.2
2ーイ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く		85.4	86.6	-1.2	86.0	-0.6	3.5	4.4	-0.9	5.6	-2.1
2二	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	78.2	78.5	-0.3	78.4	-0.2	4.3	5.4	-1.1	7.0	-2.7
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	40.5	40.5	0.0	41.6	-1.1	5.0	6.7	-1.7	8.7	-3.7
3ー	〈絵3〉の場面が始まるままとまりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える	58.0	59.5	-1.5	60.4	-2.4	7.4	9.5	-2.1	9.7	-2.3
3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら書ける	71.3	71.6	-0.3	66.6	4.7	9.8	11.9	-2.1	15.1	-5.3

設問別調査結果 [中学校国語A：主として知識]

一全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 一全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,203					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
	全体	33	74.7	73.3	1.4	75.8	-1.1
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	78.3	76.7	1.6	79.7	-1.4
	書くこと	5	69.9	68.5	1.4	73.6	-3.7
	読むこと	5	83.9	82.9	1.0	86.1	-2.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	72.8	71.2	1.6	72.9	-0.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0					
	話す・聞く能力	4	78.3	76.7	1.6	79.7	-1.4
	書く能力	5	69.9	68.5	1.4	73.6	-3.7
	読む能力	5	83.9	82.9	1.0	86.1	-2.2
	言語についての知識・理解・技能	19	72.8	71.2	1.6	72.9	-0.1
問題形式	選択式	23	73.9	72.1	1.8	75.5	-1.6
	短答式	10	76.7	75.9	0.8	76.7	0.0
	記述式	0					

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1一	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す	93.6	91.6	2.0	93.0	0.6	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0
1二	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	63.7	61.4	2.3	65.0	-1.3	11.9	12.7	-0.8	12.0	-0.1
2一	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する	76.5	75.0	1.5	79.8	-3.3	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0
2二	意見文を直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く	81.8	80.9	0.9	83.6	-1.8	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0
3一	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	52.7	51.7	1.0	58.3	-5.6	0.5	0.5	0.0	0.4	0.1
3二	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	87.3	86.0	1.3	88.7	-1.4	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1
3三	嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	86.8	87.3	-0.5	89.8	-3.0	0.8	0.4	0.4	0.3	0.5
4一	棒グラフの部の変化の内容を適切に書く	伝えたい事実を明確に書く	64.1	62.5	1.6	67.6	-3.5	3.8	4.7	-0.9	4.2	-0.4
5一	「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる	92.1	91.7	0.4	93.6	-1.5	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1
6一	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える	69.5	67.2	2.3	71.3	-1.8	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0
6二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える	83.8	82.4	1.4	87.1	-3.3	0.7	0.5	0.2	0.4	0.3
7一	二つの回答の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える	64.9	64.5	0.4	70.6	-5.7	0.7	0.8	-0.1	0.7	0.0
7二	要望を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	62.0	59.8	2.2	66.4	-4.4	8.0	10.4	-2.4	8.6	-0.6
8一	インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら聞き取る	81.9	80.8	1.1	84.6	-2.7	0.4	0.5	-0.1	0.6	-0.2
8二	意図に合った質問として適切なものを選択する		74.0	72.9	1.1	76.1	-2.1	0.6	0.6	0.0	0.7	-0.1

設問別調査結果 [中学校国語A：主として知識]

―全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 ―全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,203		平均正答率(%)				
分類	区分	対象設問数 (問)	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
	全体	33	74.7	73.3	1.4	75.8	-1.1	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	78.3	76.7	1.6	79.7	-1.4	
	書くこと	5	69.9	68.5	1.4	73.6	-3.7	
	読むこと	5	83.9	82.9	1.0	86.1	-2.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	72.8	71.2	1.6	72.9	-0.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0						
	話す・聞く能力	4	78.3	76.7	1.6	79.7	-1.4	
	書く能力	5	69.9	68.5	1.4	73.6	-3.7	
	読む能力	5	83.9	82.9	1.0	86.1	-2.2	
	言語についての知識・理解・技能	19	72.8	71.2	1.6	72.9	-0.1	
問題形式	選択式	23	73.9	72.1	1.8	75.5	-1.6	
	短答式	10	76.7	75.9	0.8	76.7	0.0	
	記述式	0						

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
9-1	漢字を書く(ピョウソク五メートルの風が吹く)	文脈に即して漢字を正しく書く	89.8	89.7	0.1	88.5	1.3	1.4	1.6	-0.2	2.2	-0.8
9-2	漢字を書く(地図のシュクシャクを調べる)		79.7	74.7	5.0	72.1	7.6	5.2	7.4	-2.2	10.1	-4.9
9-3	漢字を書く(アマったお金を貯金する)		66.9	67.3	-0.4	70.9	-4.0	19.0	18.2	0.8	15.9	3.1
9-1	漢字を読む(詳細に述べる)	文脈に即して漢字を正しく読む	79.4	81.4	-2.0	78.2	1.2	3.3	3.6	-0.3	5.1	-1.8
9-2	漢字を読む(シャツの袖をまくる)		93.1	95.5	-2.4	94.1	-1.0	0.7	0.9	-0.2	1.2	-0.5
9-3	漢字を読む(学校のことが新聞に載る)		97.8	97.1	0.7	97.2	0.6	0.8	1.1	-0.3	1.3	-0.5
9-3ア	適切な語句を選択する(将来は、気象予報士になりたい)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	98.3	97.9	0.4	97.6	0.7	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0
9-3イ	適切な語句を選択する(彼がこの討論の口火を切った)		51.1	48.5	2.6	55.5	-4.4	1.0	0.9	0.1	0.9	0.1
9-3ウ	適切な敬語を選択する(私が先生のお宅に参ります)		84.9	84.5	0.4	84.1	0.8	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0
9-3エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の縁の下で力持ちと言える存在だ)		63.9	60.3	3.6	70.8	-6.9	1.0	0.8	0.2	0.8	0.2
9-3オ	適切な語句を選択する(たなびく雲の間から、春の光がもれている)		47.6	41.6	6.0	49.0	-1.4	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0
9-3カ	適切な語句を選択する(新聞を読む習慣を身に付ける)		86.9	86.4	0.5	86.9	0.0	1.1	0.8	0.3	0.9	0.2
9-4①	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する	60.9	56.8	4.1	62.3	-1.4	1.1	0.9	0.2	0.9	0.2
9-4②			35.1	30.0	5.1	33.7	1.4	1.1	1.1	0.0	1.1	0.0
9-5	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する	毛筆を用いて、楷書で文字を書く	85.6	84.8	0.8	85.9	-0.3	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0
9-6	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く	64.3	61.4	2.9	58.2	6.1	1.1	1.2	-0.1	1.2	-0.1
9-7①	漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する	75.2	73.7	1.5	75.3	-0.1	1.2	1.4	-0.2	1.4	-0.2
9-7②	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもち、	70.7	70.2	0.5	66.7	4.0	8.2	9.1	-0.9	9.9	-1.7

設問別調査結果 [中学校国語B：主として活用]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,207		平均正答率(%)			
分類	区分	対象設問数 (問)	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域等	全体	9	66.0	64.1	1.9	65.8	0.2
	話すこと・聞くこと	3	74.0	71.3	2.7	72.2	1.8
	書くこと	3	37.3	34.6	2.7	36.7	0.6
	読むこと	6	62.0	60.4	1.6	62.6	-0.6
評価の観点	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0					
	国語への関心・意欲・態度	3	37.3	34.6	2.7	36.7	0.6
	話す・聞く能力	3	74.0	71.3	2.7	72.2	1.8
	書く能力	3	37.3	34.6	2.7	36.7	0.6
	読む能力	6	62.0	60.4	1.6	62.8	-0.8
問題形式	言語についての知識・理解・技能	0					
	選択式	6	80.3	78.8	1.5	80.3	0.0
	短答式	0					
	記述式	3	37.3	34.6	2.7	36.7	0.6

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1一	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	76.8	73.9	2.9	73.2	3.6	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
1二	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	効果的な資料を作成し、活用して話す	88.5	86.6	1.9	87.3	1.2	0.2	0.3	-0.1	0.4	-0.2
1三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	56.7	53.4	3.3	56.2	0.5	2.0	2.4	-0.4	2.8	-0.8
2一	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する	84.0	81.2	2.8	82.6	1.4	0.1	0.2	-0.1	0.3	-0.2
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える	64.5	63.7	0.8	67.8	-3.3	0.1	0.3	-0.2	0.3	-0.2
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	24.3	21.7	2.6	23.0	1.3	2.7	3.0	-0.3	3.7	-1.0
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	87.1	86.4	0.7	88.6	-1.5	0.5	0.6	-0.1	0.5	0.0
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する		80.9	80.8	0.1	82.6	-1.7	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	31.0	28.8	2.2	31.1	-0.1	7.5	9.5	-2.0	11.2	-3.7

設問別調査結果 [小学校算数A：主として知識]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数			始良・伊佐地区 2,237				
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
	全体	16	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域	数と計算	7	75.1	75.9	-0.8	75.2	-0.1
	量と測定	3	78.9	80.5	-1.6	80.1	-1.2
	図形	4	70.1	71.0	-0.9	71.3	-1.2
	数量関係	4	66.5	67.4	-0.9	64.5	2.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	2	83.5	84.6	-1.1	84.9	-1.4
	数学的な考え方	0					
	数量や図形についての技能	0					
	数量や図形についての知識・理解	7	76.7	77.0	-0.3	77.2	-0.5
問題形式	選択式	9	73.9	75.1	-1.2	73.6	0.3
	短答式	5	70.2	71.2	-1.0	70.5	-0.3
	記述式	11	77.4	78.1	-0.7	77.3	0.1
		0					

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	71.2	73.3	-2.1	71.0	0.2	0.4	0.4	0.0	0.6	-0.2
1(2)	5.21+0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	69.2	69.3	-0.1	74.3	-5.1	1.0	0.9	0.1	1.1	-0.1
1(3)	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	加法における計算の確かめの方法を理解している	80.7	82.3	-1.6	82.0	-1.3	1.4	1.5	-0.1	2.0	-0.6
2(1)	28+72を計算する	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	97.9	98.0	-0.1	98.2	-0.3	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
2(2)	6.79-0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	69.7	69.7	0.0	69.5	0.2	0.6	0.5	0.1	0.7	-0.1
2(3)	5/9-1/4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	82.0	82.3	-0.3	81.4	0.6	1.4	1.3	0.1	1.8	-0.4
2(4)	5/6÷7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	88.5	88.4	0.1	84.2	4.3	2.3	2.1	0.2	4.1	-1.8
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	72.3	73.2	-0.9	74.8	-2.5	1.8	1.2	0.6	1.0	0.8
4(1)	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	80.7	81.3	-0.6	81.3	-0.6	0.3	0.2	0.1	0.3	0.0
4(2)	分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	57.2	58.4	-1.2	58.0	-0.8	0.5	0.3	0.2	0.5	0.0
5(1)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	53.3	53.0	0.3	50.6	2.7	1.6	1.2	0.4	1.6	0.0
5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる	70.6	71.7	-1.1	64.5	6.1	2.0	1.7	0.3	2.4	-0.4
6(1)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	示された見取図の情報に基づき、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる	77.3	78.3	-1.0	75.4	1.9	2.1	1.6	0.5	2.1	0.0
6(2)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している	64.8	66.7	-1.9	67.6	-2.8	3.7	3.0	0.7	3.4	0.3
7	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	グラフに表されている事柄を読み取ることができる	80.9	81.9	-1.0	81.8	-0.9	2.8	2.4	0.4	2.3	0.5
8	○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる	86.1	87.2	-1.1	88.1	0.8	5.1	4.3	0.8	4.6	0.5

設問別調査結果 [小学校算数B：主として活用]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数			始良・伊佐地区 2,238				
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
	全体	13	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域	数と計算	4	41.8	42.5	-0.7	45.0	-3.2
	量と測定	3	38.1	39.2	-1.1	42.4	-4.3
	図形	7	38.8	39.4	-0.6	41.7	-2.9
	図形	7	43.2	43.4	-0.2	46.6	-3.4
評価の観点	数量関係	3	38.7	39.9	-1.2	43.0	-4.3
	算数への関心・意欲・態度	0					
	数学的な考え方	9	32.1	32.7	-0.6	35.3	-3.2
	数量や図形についての技能	2	56.6	58.1	-1.5	58.7	-2.1
問題形式	数量や図形についての知識・理解	2	70.6	70.9	-0.3	74.9	-4.3
	選択式	3	65.4	65.9	-0.5	70.6	-5.2
	短答式	5	39.0	40.0	-1.0	42.2	-3.2
	記述式	5	30.5	30.9	-0.4	32.5	-2.0

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1 (1)	平行四辺形を構成することができる。四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している	95.7	95.2	0.5	95.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	-0.1
1 (2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	45.4	46.5	-1.1	54.6	-9.2	1.1	0.9	0.2	1.0	0.1
1 (3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見いだし、その図形の性質を記述できる	31.3	30.1	1.2	27.7	3.6	12.4	12.1	0.3	14.3	-1.9
2 (1)	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を検討し、代金を求めることができる	60.8	62.2	-1.4	64.8	-4.0	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
2 (2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる	8.0	9.0	-1.0	13.1	-5.1	3.8	3.5	0.3	4.5	-0.7
2 (3)	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見いだし、正しい求め方と答えを書く	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる	47.3	48.6	-1.3	51.0	-3.7	11.3	11.2	0.1	12.8	-1.5
3 (1)	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれどの目盛りのところを持ってばよいかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	27.4	28.6	-1.2	32.5	-5.1	5.7	5.7	0.0	6.7	-1.0
3 (2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30°になる理由を記述できる	47.1	47.6	-0.5	49.1	-2.0	16.5	15.8	0.7	18.9	-2.4
4 (1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	52.7	54.1	-1.4	52.6	0.1	1.8	1.8	0.0	2.4	-0.6
4 (2)	切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	55.0	56.0	-1.0	62.0	-7.0	3.8	3.5	0.3	3.9	-0.1
4 (3)	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	概数を用いた見積りの結果とそれに基づき判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	17.0	18.1	-1.1	22.3	-5.3	14.5	13.7	0.8	15.3	-0.8
5 (1)	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	9.7	10.0	-0.3	12.5	-2.8	20.0	19.2	0.8	21.0	-1.0
5 (2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	45.8	46.0	-0.2	47.8	-2.0	17.7	16.5	1.2	17.3	0.4

設問別調査結果 【中学校数学A：主として知識】

ー全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 ー全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,206					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域	全体	36	63.5	61.7	1.8	64.4	-0.9
	数と式	12	67.6	64.7	2.9	67.7	-0.1
	図形	12	62.1	60.5	1.6	63.4	-1.3
	関数	8	59.1	58.6	0.5	61.7	-2.6
	資料の活用	4	64.2	62.7	1.5	63.0	1.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0					
	数学的な見方や考え方	0					
	数学的な技能	17	64.8	62.5	2.3	65.0	-0.2
問題形式	数量や図形などについての知識・理解	19	62.4	61.0	1.4	63.9	-1.5
	選択式	19	62.8	61.7	1.1	64.6	-1.8
	短答式	17	64.4	61.7	2.7	64.2	0.2
	記述式	0					

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	12:9 と等しい比を選ぶ	比の意味を理解している	93.8	94.5	-0.7	93.6	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0
1(2)	<u>12-2x(-6) を計算する</u>	<u>加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる</u>	<u>87.1</u>	<u>83.5</u>	<u>3.6</u>	<u>83.7</u>	<u>3.4</u>	1.1	0.9	0.2	1.2	-0.1
1(3)	a が正の数のとき、 $a \times (-2)$ の計算の結果について、正しい記述を選ぶ	正の数と負の数の乗法について理解している	74.2	74.0	0.2	75.7	-1.5	0.3	0.2	0.1	0.3	0.0
1(4)	ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	72.7	71.3	1.4	75.4	-2.7	1.4	1.2	0.2	1.3	0.1
2(1)	$5x-x$ を計算する	一次式の減法の計算ができる	85.6	81.7	3.9	85.3	0.3	1.7	1.6	0.1	1.6	0.1
2(2)	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表	数量の関係を文字式に表すことができる	23.5	20.8	2.7	22.2	1.3	7.5	9.2	-1.7	9.0	-1.5
2(3)	等式 $2x-y=5$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができる	61.6	56.7	4.9	64.2	-2.6	6.3	7.2	-0.9	6.8	-0.5
2(4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数を n とするとき、それらの和が中央の整数の3倍になることを、n を用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	61.2	58.8	2.4	57.0	4.2	6.4	7.2	-0.8	7.9	-1.5
3(1)	一元一次方程式 $7x=5x+4$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	79.4	76.8	2.6	79.4	0.0	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0
3(2)	<u>一元一次方程式 $1.2x-6=0.5x+1$ を解く</u>	<u>小数を含む一元一次方程式を解くことができる</u>	<u>74.0</u>	<u>68.4</u>	<u>5.6</u>	73.8	0.2	6.8	8.9	-2.1	7.1	-0.3
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	39.7	36.5	3.2	44.9	-5.2	0.8	0.9	-0.1	0.9	-0.1
3(4)	<u>連立二元一次方程式 $\begin{cases} 4x+2y=5 \\ x+y=2 \end{cases}$ を解く</u>	<u>簡単な連立二元一次方程式を解くことができる</u>	<u>58.2</u>	<u>53.7</u>	<u>4.5</u>	56.8	1.4	10.3	11.8	-1.5	10.4	-0.1
4(1)	垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ	垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	55.1	54.5	0.6	59.1	-4.0	0.8	1.1	-0.3	1.0	-0.2
4(2)	△ABC を、矢印の方向に 4 cm 平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかくことができる	48.1	48.4	-0.3	54.5	-6.4	2.8	2.5	0.3	2.2	0.6
5(1)	直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く	空間における直線と平面の垂直について理解している	46.3	46.5	-0.2	47.4	-1.1	1.9	1.7	0.2	1.9	0.0
5(2)	直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している	83.0	81.6	1.4	83.4	-0.4	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0
5(3)	与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	85.1	84.9	0.2	83.8	1.3	0.3	0.3	0.0	0.4	-0.1
5(4)	与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	57.7	56.3	1.4	56.4	1.3	1.6	1.6	0.0	1.4	0.2
6(1)	<u>同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ</u>	<u>同位角の意味を理解している</u>	<u>80.6</u>	<u>77.6</u>	<u>3.0</u>	80.3	0.3	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0

設問別調査結果 【中学校数学 A：主として知識】

下線 一全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 一全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,206					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域	全体	36	63.5	61.7	1.8	64.4	-0.9
	数と式	12	67.6	64.7	2.9	67.7	-0.1
	図形	12	62.1	60.5	1.6	63.4	-1.3
	関数	8	59.1	58.6	0.5	61.7	-2.6
	資料の活用	4	64.2	62.7	1.5	63.0	1.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0					
	数学的な見方や考え方	0					
	数学的な技能	17	64.8	62.5	2.3	65.0	-0.2
問題形式	数量や図形などについての知識・理解	19	62.4	61.0	1.4	63.9	-1.5
	選択式	19	62.8	61.7	1.1	64.6	-1.8
	短答式	17	64.4	61.7	2.7	64.2	0.2
	記述式	0					

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
6(2)	四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	70.1	67.0	3.1	69.7	0.4	0.7	1.1	-0.4	0.9	-0.2
7(1)	ひし形 ABCD において、 $AC \perp BD$ が表す性質を選ぶ	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる	78.9	76.9	2.0	76.1	2.8	0.4	0.5	-0.1	0.5	-0.1
7(2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	74.3	68.8	5.5	76.1	-1.8	6.3	8.3	-2.0	6.8	-0.5
7(3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	43.1	40.2	2.9	48.1	-5.0	0.7	1.0	-0.3	0.9	-0.2
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	23.4	23.2	0.2	25.8	-2.4	0.9	1.3	-0.4	1.2	-0.3
9	y が x の関数でない事象を選ぶ	関数の意味を理解している	79.6	78.2	1.4	81.5	-1.9	0.8	1.0	-0.2	0.9	-0.1
10(1)	反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフが x 軸、 y 軸に限りなく近づく 2 つのなめらかな曲線であることを理解している	64.2	63.2	1.0	61.7	2.5	1.1	1.4	-0.3	1.2	-0.1
10(2)	比例 $y = 2x$ のグラフ上の点 A の x 座標が 3 のときの y の座標を求める	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点の x 座標を基に y 座標を求めることができる	63.8	60.4	3.5	64.9	-1.0	9.6	11.6	-2.0	9.8	-0.2
10(3)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	50.9	48.7	2.2	49.3	1.6	16.4	17.9	-1.5	17.2	-0.8
11	一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選ぶ	一次関数の表から、 x と y の関係を式で表すことができる	58.4	60.3	-1.9	64.7	-6.3	1.5	1.7	-0.2	1.4	0.1
12(1)	時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ	時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している	42.2	42.3	-0.1	49.9	-7.7	1.5	1.6	-0.1	1.3	0.2
12(2)	時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから 15 分後にいる地点までの家からの道のりを求める	時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができる	81.2	81.5	-0.3	83.8	-2.6	8.8	9.6	-0.8	8.5	0.3
13	二元一次方程式 $x + y = 3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している	32.5	34.0	-1.5	37.9	-5.4	2.5	2.9	-0.4	2.3	0.2
14(1)	反復抽とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	51.2	50.8	0.4	46.0	5.2	7.4	9.3	-1.9	9.7	-2.3
14(2)	度数分布表について、ある階級の度数を求める	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる	78.6	76.8	1.8	75.9	2.7	7.8	8.9	-1.1	9.4	-1.6
15(1)	セットメニューの選び方の総数を求める	起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる	75.5	72.6	2.9	74.8	0.7	4.9	6.0	-1.1	5.2	-0.3
15(2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	51.6	50.4	1.2	55.4	-3.8	2.0	3.0	-1.0	2.1	-0.1

設問別調査結果 【中学校数学B：主として活用】

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,204					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
全体		15	41.9	39.4	2.5	41.6	0.3
学習指導要領の領域	数と式	4	64.5	62.0	2.5	63.2	1.3
	図形	4	36.8	34.2	2.6	39.0	-2.2
	関数	5	31.6	29.2	2.4	30.7	0.9
	資料の活用	2	32.6	29.9	2.7	31.2	1.4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0					
	数学的な見方や考え方	13	42.9	40.4	2.5	42.8	0.1
	数学的な技能	2	35.6	32.4	3.2	34.2	1.4
	数量や図形などについての知識・理解	0					
問題形式	選択式	4	47.2	45.8	1.4	47.9	-0.7
	短答式	4	49.0	46.2	2.8	47.4	1.6
	記述式	7	34.8	31.8	3.0	34.8	0.0

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	28.9	26.5	2.4	29.3	-0.4	19.6	20.7	-1.1	21.1	-1.5
1(2)	投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる	35.6	34.7	0.9	35.1	0.5	1.2	0.9	0.3	0.9	0.3
1(3)	映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる	11.1	8.3	2.8	11.7	-0.6	4.6	4.9	-0.3	5.6	-1.0
2(1)	連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	80.9	78.5	2.4	78.8	2.1	5.0	5.6	-0.6	6.0	-1.0
2(2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	44.7	40.7	4.0	43.1	1.6	21.9	23.6	-1.7	24.0	-2.1
2(3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	67.6	64.6	3.0	63.8	3.8	16.2	18.2	-2.0	19.4	-3.2
3(1)	ポップアップカードを90°に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める	平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる	43.9	41.6	2.3	42.6	1.3	6.4	8.2	-1.8	8.7	-2.3
3(2)	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる	19.7	18.0	1.7	21.2	-1.5	48.9	50.1	-1.2	48.2	0.7
4(1)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	37.1	35.3	1.8	42.5	-5.4	0.8	1.3	-0.5	1.2	-0.4
4(2)	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、AF=CFとなることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	46.7	42.0	4.7	49.6	-2.9	16.2	20.4	-4.2	18.6	-2.4
5(1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	42.4	38.3	4.1	39.1	3.3	20.8	24.5	-3.7	26.8	-6.0
5(2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することでもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	22.7	21.5	1.2	23.3	-0.6	25.5	28.8	-3.3	29.7	-4.2
5(3)	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	64.9	64.3	0.6	67.3	-2.4	0.9	1.5	-0.6	1.5	-0.6
6(1)	中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる	51.0	49.0	2.0	46.5	4.5	1.1	1.4	-0.3	1.3	-0.2
6(2)	底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	31.5	27.4	4.1	30.8	0.7	15.7	16.0	-0.3	17.1	-1.4

設問別調査結果 [小学校理科]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,238						
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)					
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
全体		24	63.3	63.4	-0.1	60.8	2.5	
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	7	61.9	61.4	0.5	57.4	4.5
		化学的領域	6	66.6	66.6	0.0	65.6	1.0
	第2分野	生物的領域	6	62.2	63.1	-0.9	61.2	1.0
		地学的領域	7	59.6	59.5	0.1	57.8	1.8
	評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度		0				
科学的な思考・表現		15	61.8	61.9	-0.1	60.5	1.3	
観察・実験の技能		5	60.1	60.3	-0.2	55.5	4.6	
自然現象についての知識・理解		4	73.2	73.1	0.1	68.6	4.6	
問題形式	選択式		18	64.7	64.9	-0.2	62.9	1.8
	短答式		3	73.6	72.9	0.7	63.6	10.0
	記述式		3	45.1	45.1	0.0	45.3	-0.2

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1 (1)	振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる	79.5	79.9	-0.4	77.6	1.9	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
1 (2)	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	66.2	68.1	-1.9	61.2	5.0	0.3	0.4	-0.1	0.7	-0.4
1 (3)	振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる	60.5	60.0	0.5	62.8	-2.3	0.9	0.7	0.2	1.1	-0.2
1 (4)	電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ	電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる	50.0	50.3	-0.3	53.2	-3.2	1.0	0.7	0.3	1.3	-0.3
1 (5) ア	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	71.5	71.6	-0.1	72.7	-1.2	0.5	0.4	0.1	0.9	-0.4
1 (5) イ			71.7	69.8	1.9	66.2	5.5	0.6	0.5	0.1	1.0	-0.4
2 (1)	メダカのめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	80.9	84.6	-3.7	78.0	2.9	0.0	0.2	-0.2	0.3	-0.3
2 (2) よし子	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点をを選ぶ	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	78.3	78.7	-0.4	76.3	2.0	0.6	0.4	0.2	0.6	0.0
2 (2) ひろし			68.3	69.0	-0.7	69.0	-0.7	0.7	0.5	0.2	0.8	-0.1
2 (3)	示された器具(顕微鏡)の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している	66.0	66.3	-0.3	61.6	4.4	10.6	10.9	-0.3	16.1	-5.5
2 (4)	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている	38.3	37.5	0.8	37.9	0.4	0.8	0.8	0.0	1.0	-0.2
2 (5)	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる	41.6	42.7	-1.1	44.2	-2.6	2.1	2.0	0.1	2.8	-0.7
3 (1)	水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している	81.3	80.4	0.9	81.9	-0.6	0.2	0.2	0.0	0.5	-0.3
3 (2)	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	57.1	58.2	-1.1	54.0	3.1	0.3	0.3	0.0	0.7	-0.4
3 (3)	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる	57.4	56.4	1.0	51.7	5.7	0.5	0.6	-0.1	1.1	-0.6

設問別調査結果 [小学校理科]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数			始良・伊佐地区 2,238				
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
	全体	24	始良・伊佐地区 63.3	鹿児島県(公立) 63.4	対県比 -0.1	全国(公立) 60.8	対全国比 2.5
学習指導要領の分野等	第1分野						
	物理的領域	7	61.9	61.4	0.5	57.4	4.5
	化学的領域	6	66.6	66.6	0.0	65.6	1.0
	生物学的領域	6	62.2	63.1	-0.9	61.2	1.0
評価の観点	第2分野						
	地学的領域	7	59.6	59.5	0.1	57.8	1.8
	自然現象への関心・意欲・態度	0					
	科学的な思考・表現	15	61.8	61.9	-0.1	60.5	1.3
問題形式	観察・実験の技能	5	60.1	60.3	-0.2	55.5	4.6
	自然現象についての知識・理解	4	73.2	73.1	0.1	68.6	4.6
	選択式	18	64.7	64.9	-0.2	62.9	1.8
	短答式	3	73.6	72.9	0.7	63.6	10.0
	記述式	3	45.1	45.1	0.0	45.3	-0.2

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
3 (4)	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	86.1	86.8	-0.7	70.7	15.4	3.7	4.1	-0.4	10.7	-7.0
3 (5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	57.7	55.5	2.2	51.7	6.0	2.5	2.5	0.0	2.9	-0.4
3 (6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	33.1	32.7	0.4	28.9	4.2	4.4	4.5	-0.1	5.7	-1.3
4 (1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる	45.3	45.4	-0.1	41.0	4.3	1.3	1.2	0.1	2.0	-0.7
4 (2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	61.9	61.7	0.2	56.1	5.8	1.2	1.2	0.0	2.0	-0.8
4 (3)	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている	52.3	55.3	-3.0	55.3	-3.0	1.3	1.4	-0.1	2.2	-0.9
4 (4)	観察した星座や雲の動きを選ぶ	星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる	64.0	62.2	1.8	65.0	-1.0	2.2	2.1	0.1	3.0	-0.8
4 (5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	68.7	65.7	3.0	58.5	10.2	8.9	9.0	-0.1	15.2	-6.3
4 (6)	地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ	打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる	83.1	83.6	-0.5	84.2	-1.1	3.1	3.0	0.1	4.2	-1.1

設問別調査結果 [中学校理科]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,205						
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)					
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
学習指導要領の分野等	全体	24	54.2	51.9	2.3	53.0	1.2	
	第1分野	物理的領域	7	48.7	47.4	1.3	48.9	-0.2
		化学的領域	6	57.0	54.4	2.6	56.2	0.8
	第2分野	生物的領域	6	64.3	61.4	2.9	62.2	2.1
		地学的領域	7	48.1	45.9	2.2	46.4	1.7
	評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		0				
科学的な思考・表現		15	48.9	46.6	2.3	48.8	0.1	
観察・実験の技能		5	50.2	47.4	2.8	46.8	3.4	
自然事象についての知識・理解		4	74.7	72.6	2.1	70.6	4.1	
問題形式	選択式	18	53.1	51.2	1.9	53.1	0.0	
	短答式	3	66.1	63.8	2.3	61.6	4.5	
	記述式	3	48.0	44.5	3.5	45.8	2.2	

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1 (1)	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	塩化ナトリウムを化学式で表すことができる	81.3	81.9	-0.6	79.6	1.7	0.2	0.2	0.0	0.3	-0.1
1 (1)	濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	46.7	43.9	2.8	45.0	1.7	16.1	17.5	-1.4	17.6	-1.5
1 (2)	同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる	31.5	29.8	1.7	32.6	-1.1	0.2	0.2	0.0	0.3	-0.1
1 (3)	<u>水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する</u>	<u>二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる</u>	<u>56.7</u>	<u>50.7</u>	<u>6.0</u>	<u>53.0</u>	<u>3.7</u>	<u>15.3</u>	<u>18.6</u>	<u>-3.3</u>	<u>18.8</u>	<u>-3.5</u>
1 (4)	炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ	グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる	73.6	70.7	2.9	73.6	0.0	0.3	0.3	0.0	0.4	-0.1
1 (5)	<u>ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ</u>	<u>炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定する対照実験を計画することができる</u>	<u>49.3</u>	<u>45.5</u>	<u>3.8</u>	51.7	-2.4	0.7	0.8	-0.1	0.8	-0.1
1 (6)	他者の考えを検討して改善し、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱したときの化学変化の説明として最も適切なものを選ぶ	他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる	59.9	58.2	1.7	57.7	2.2	1.1	1.2	-0.1	1.2	-0.1
2 (1)	天気図から風力を読み取る	天気の記号から風力を読み取ることができる	79.1	76.9	2.2	77.9	1.2	7.5	8.6	-1.1	9.0	-1.5
2 (2)	<u>天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ</u>	<u>天気の記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる</u>	<u>53.6</u>	50.9	2.7	<u>48.6</u>	<u>5.0</u>	0.4	0.5	-0.1	0.5	-0.1
2 (3)	<u>湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているとところを改善する</u>	<u>他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる</u>	<u>18.1</u>	<u>14.0</u>	<u>4.1</u>	<u>14.5</u>	<u>3.6</u>	6.3	6.3	0.0	6.7	-0.4
2 (4)	上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状況を推論する	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	60.0	59.8	0.2	62.2	-2.2	0.4	0.5	-0.1	0.5	-0.1
3 (1)	13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ	露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる	37.2	35.5	1.7	36.5	0.7	0.5	0.6	-0.1	0.6	-0.1
3 (2)	上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ	一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる	40.3	38.4	1.9	39.0	1.3	0.8	1.0	-0.2	0.8	0.0
4 (1)	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる	39.4	39.9	-0.5	43.7	-4.3	0.5	0.6	-0.1	0.6	-0.1
4 (2)	ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ	他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる	48.2	46.7	1.5	50.3	-2.1	0.8	1.2	-0.4	1.1	-0.3

設問別調査結果 [中学校理科]

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等及び無回答率が特に高かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,205						
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)					
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
学習指導要領の分野等	全体	24	54.2	51.9	2.3	53.0	1.2	
	第1分野	物理的領域	7	48.7	47.4	1.3	48.9	-0.2
		化学的領域	6	57.0	54.4	2.6	56.2	0.8
	第2分野	生物的領域	6	64.3	61.4	2.9	62.2	2.1
		地学的領域	7	48.1	45.9	2.2	46.4	1.7
	評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0					
科学的な思考・表現		15	48.9	46.6	2.3	48.8	0.1	
観察・実験の技能		5	50.2	47.4	2.8	46.8	3.4	
自然事象についての知識・理解		4	74.7	72.6	2.1	70.6	4.1	
問題形式	選択式	18	53.1	51.2	1.9	53.1	0.0	
	短答式	3	66.1	63.8	2.3	61.6	4.5	
	記述式	3	48.0	44.5	3.5	45.8	2.2	

設問別集計結果 ※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
5(1)	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	64.2	63.1	1.1	59.6	4.6	13.7	14.2	-0.5	15.6	-1.9
5(2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる	59.0	56.5	2.5	56.8	2.2	27.6	30.3	-2.7	30.7	-3.1
6(1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	41.7	38.5	3.2	40.1	1.6	0.9	1.0	-0.1	0.8	0.1
6(2)	音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ	音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる	28.5	27.7	0.8	29.9	-1.4	1.0	1.2	-0.2	1.0	0.0
7(1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる	74.4	70.0	4.4	72.2	2.2	0.8	1.0	-0.2	0.9	-0.1
7(2)	キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる	75.3	73.5	1.8	76.4	-1.1	1.1	1.2	-0.1	1.1	0.0
7(3)	キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる	57.9	55.5	2.4	57.3	0.6	27.1	28.8	-1.7	27.8	-0.7
8(1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	74.6	71.3	3.3	63.9	10.7	7.1	9.0	-1.9	10.4	-3.3
8(2)	えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ	平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる	55.0	52.5	2.5	55.7	-0.7	1.3	1.6	-0.3	1.4	-0.1
8(3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる	48.6	45.8	2.8	47.4	1.2	23.8	26.1	-2.3	25.5	-1.7

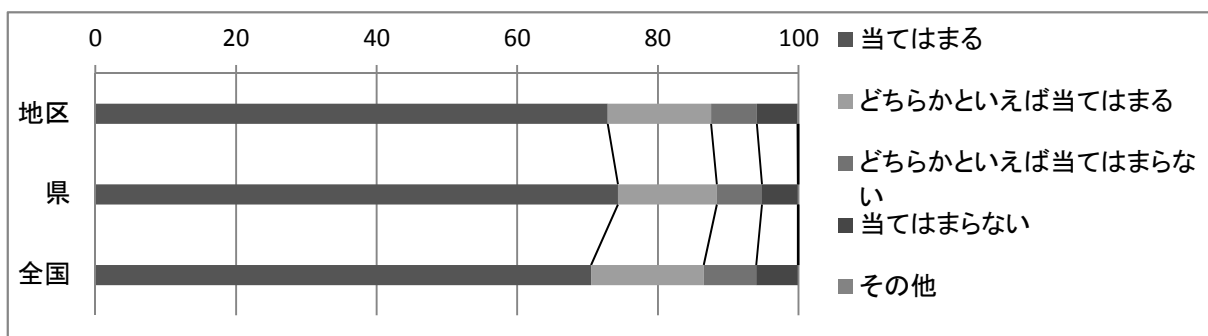
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

将来の夢や目標を持っていますか

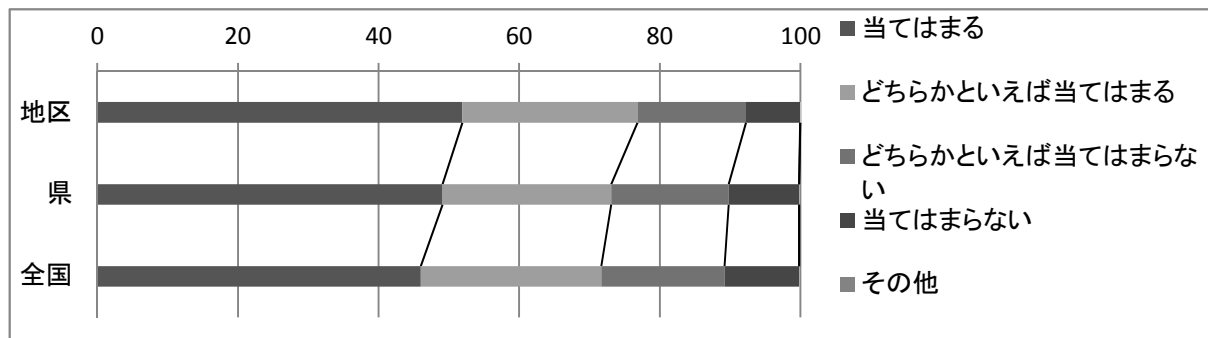
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	72.9	14.7	6.5	5.8					0.1	0.0
県	74.3	14.1	6.4	5.1					0.1	0.0
全国	70.5	16.0	7.5	5.9					0.1	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	51.9	24.9	15.4	7.7					0.0	0.0
県	49.1	24.0	16.7	10.0					0.0	0.0
全国	46.0	25.7	17.5	10.6					0.0	0.0



特に中学校において、夢や目標をもっている生徒の割合が高い。



学習においても、より高い目標を持たせ、取り組ませることにより更なる学力向上が期待できる。小・中学校ともに、キャリア教育や進路指導との関連も重視し、将来への進路意識を高めながら、目標達成のための確かな学力の定着につなげる取組を推進することで、更なる学力向上が期待できる。

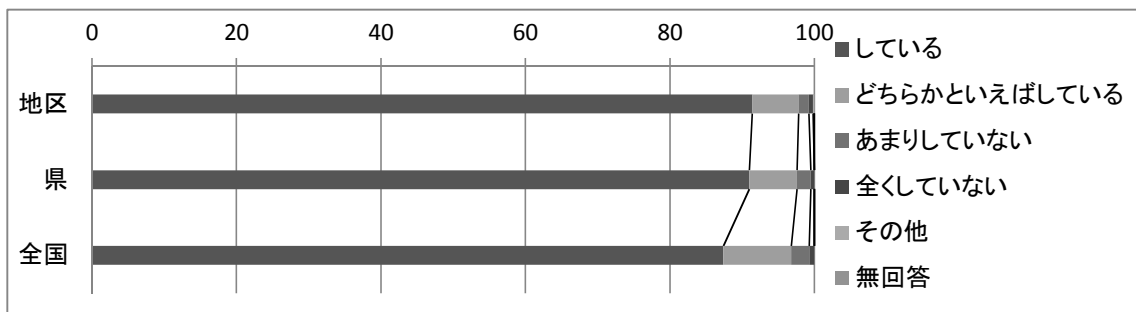
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

家で、学校の宿題をしていますか

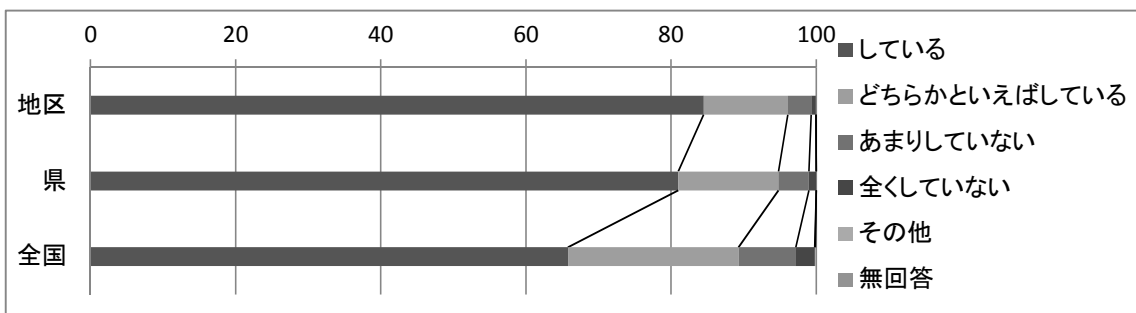
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	91.4	6.4	1.4	0.6					0.1	0.0
県	91.0	6.6	1.9	0.5					0.0	0.0
全国	87.4	9.4	2.5	0.7					0.0	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	84.5	11.6	3.2	0.6					0.0	0.0
県	81.0	13.8	4.2	1.0					0.0	0.0
全国	65.8	23.5	7.9	2.6					0.1	0.0



家庭学習の状況は総じて良好である。小・中学校ともに、家庭学習の状況は、県・全国と比較からも、たいへんよい状況にあることが分かる。



家庭で学習する習慣はしっかりできている。今後は、学習事項と宅習の内容の関連を見直すなど、宅習の内容、質の更なる充実を図り、学習事項の確実な定着を目指すことが大切である。

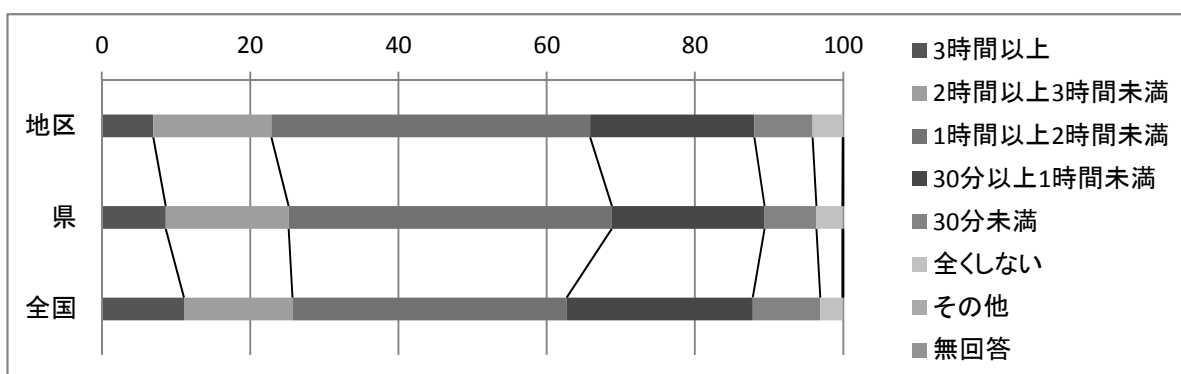
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

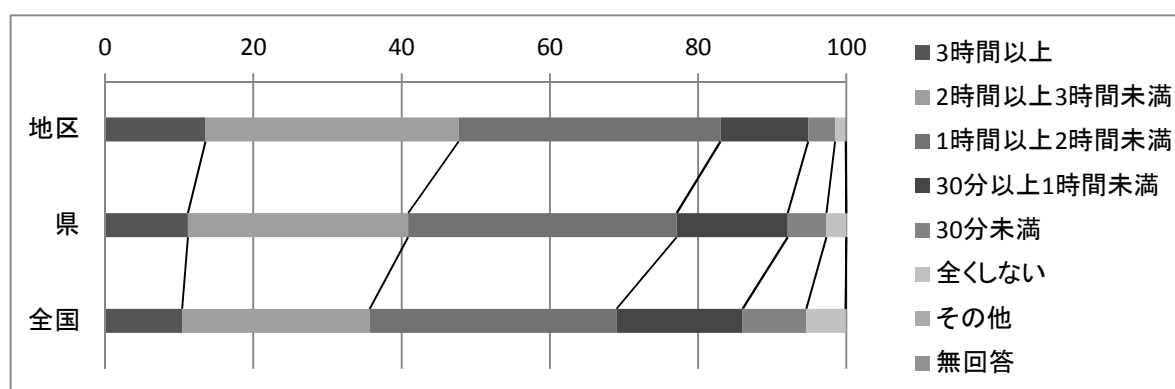
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	6.9	16.0	43.0	22.2	7.9	4.0			0.1	0.0
県	8.6	16.6	43.6	20.6	7.0	3.5			0.1	0.0
全国	11.1	14.6	37.0	25.1	9.1	3.0			0.1	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	13.6	34.1	35.3	11.8	3.6	1.5			0.0	0.0
県	11.2	29.7	36.2	15.0	5.2	2.7			0.0	0.0
全国	10.4	25.3	33.3	17.0	8.6	5.3			0.0	0.0



家庭学習の状況は総じて良好である。特に中学生の学習時間は、県・全国と比較からも、たいへんよい状況にあることが分かる。



家庭での学習時間がしっかりと確保され、家庭学習の習慣はしっかりとできている。今後は、宅習の内容の充実を図り、学習事項の確実な定着を目指すことが大切である。

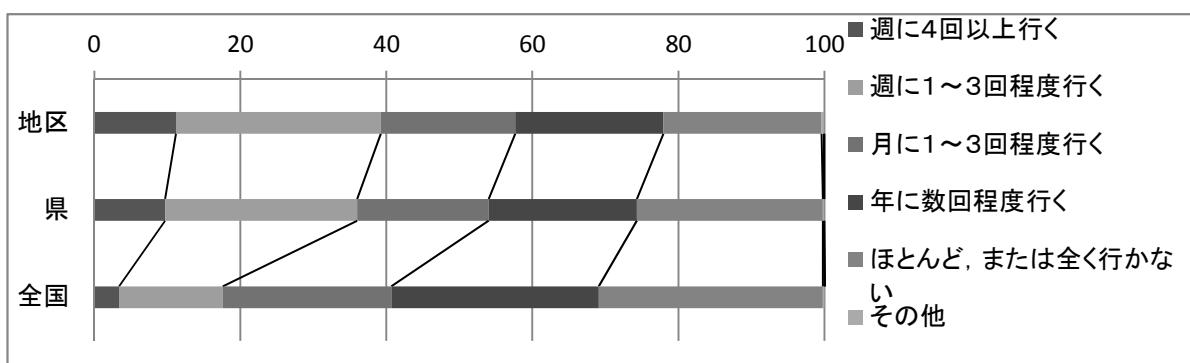
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

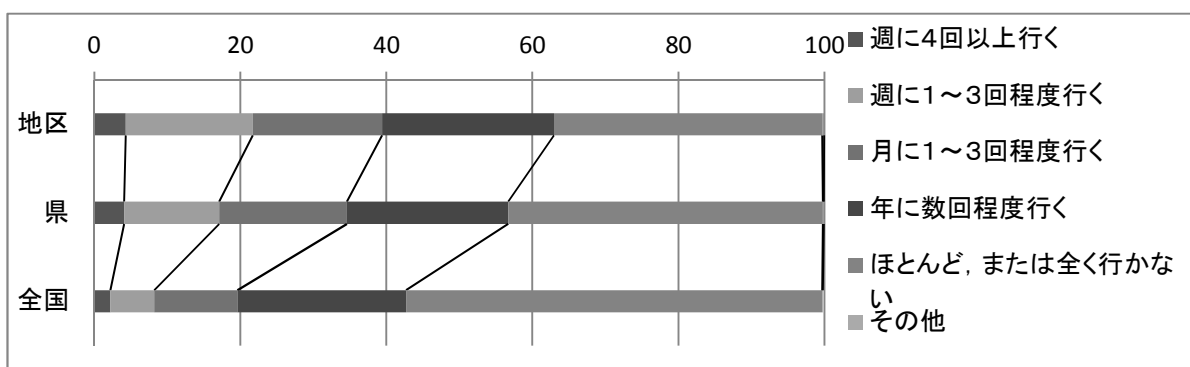
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	11.2	28.0	18.4	20.3	21.6				0.3	0.1
県	9.7	26.3	18.0	20.3	25.5				0.1	0.1
全国	3.4	14.2	23.1	28.4	30.7				0.2	0.1



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	4.3	17.4	17.7	23.5	36.7				0.0	0.3
県	4.1	13.0	17.5	22.1	43.1				0.0	0.1
全国	2.2	6.0	11.4	23.1	57.0				0.0	0.1



読書に親しんでいる児童生徒が多い。（質問51「読書は好きですか」でも「好き」と回答した割合が全国・県よりも高い。）



「読むこと」に意欲的な子どもが多いことから、授業においてもより深い読解や、発信的な読みなどにチャレンジさせることで、更なる読解力の向上が期待できる。

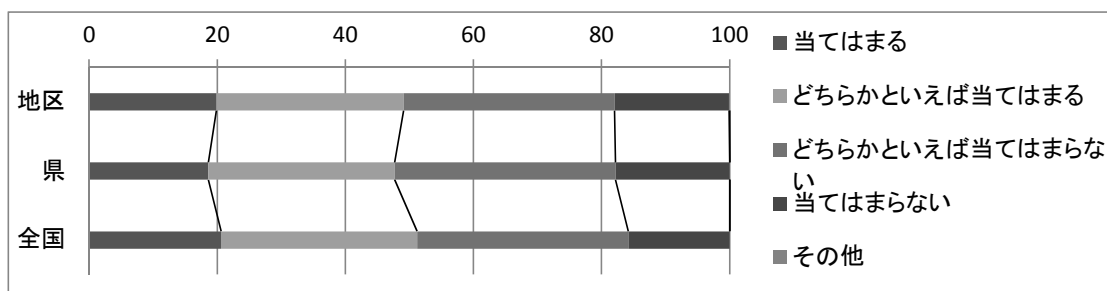
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

【小学校】

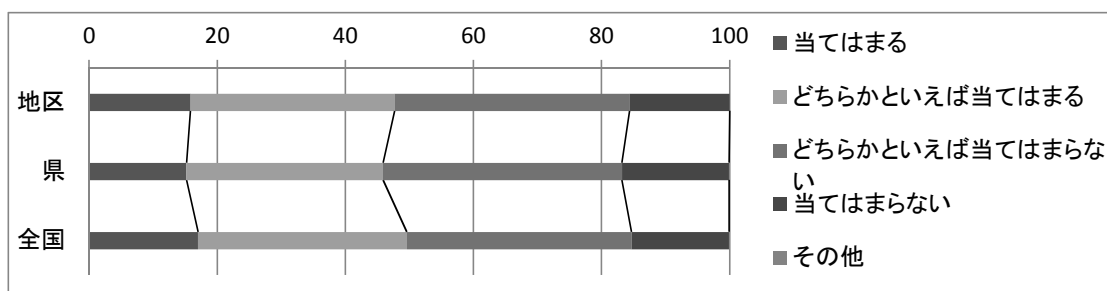
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	19.9	29.2	32.9	17.9					0.1	0.0
県	18.6	29.1	34.5	17.8					0.0	0.0
全国	20.6	30.6	33.0	15.8					0.0	0.0



参考: H26 地区: 当てはまる⇒17.6%

【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	15.8	31.9	36.7	15.6					0.0	0.0
県	15.2	30.7	37.3	16.7					0.0	0.0
全国	17.0	32.6	35.1	15.2					0.0	0.0



参考: H26 地区: 当てはまる⇒14.8%

自分の考えや意見を発表することに自信をもっている子どもの割合が、全国と比較するとやや低い。ただ、昨年度と比較すると、本地区で、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が高くなってきてはいる。



授業の中に、考えを発表したり、交流したりする活動を意図的に設定する必要がある。その際、児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問等を工夫し、思考力・判断力・表現力の向上に効果のある活動になるようにすることも必要である。

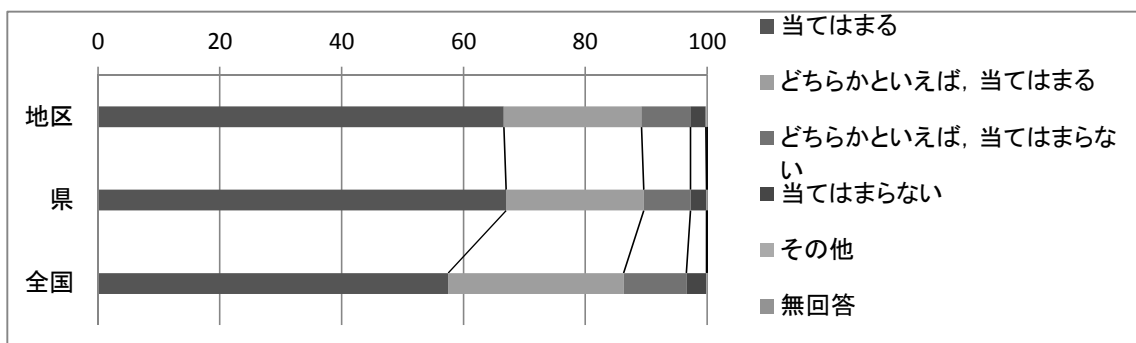
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

5年生（2年生）までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

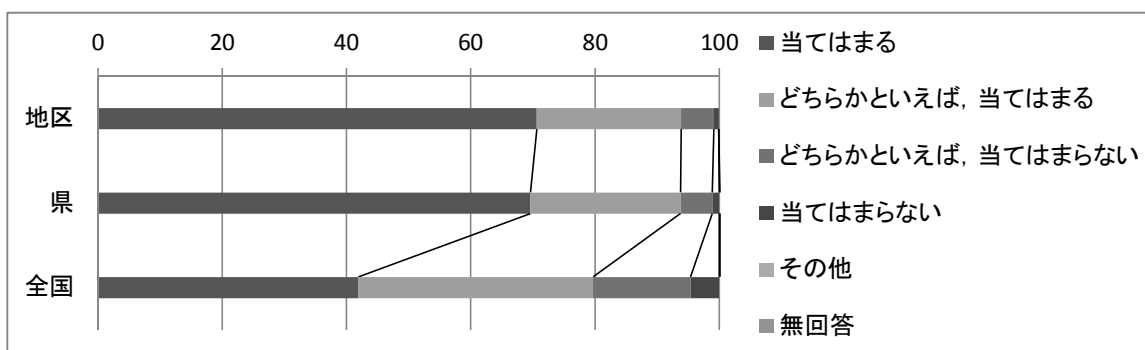
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	66.6	22.6	8.0	2.5					0.2	0.0
県	67.0	22.6	7.7	2.6					0.1	0.0
全国	57.5	28.8	10.3	3.3					0.1	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	70.6	23.3	5.3	0.8					0.0	0.0
県	69.6	24.2	5.1	1.1					0.0	0.1
全国	41.9	37.8	15.7	4.6					0.0	0.1



目標の設定は、小・中学校ともに、全国・県との比較からも、たいへんよい状況にあることが分かる。



授業の型はしっかりとできていることがうかがえる。今後は、目標設定の在り方等について研究を更に深め、より効果的な目標設定を行うことが大切である。

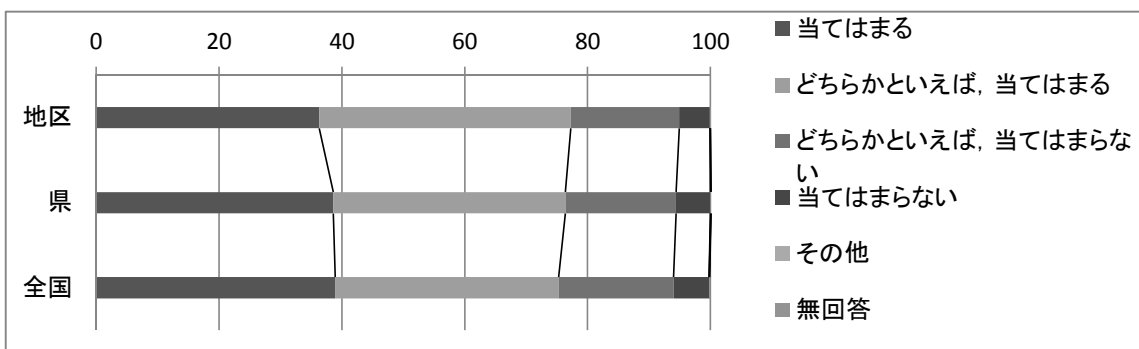
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

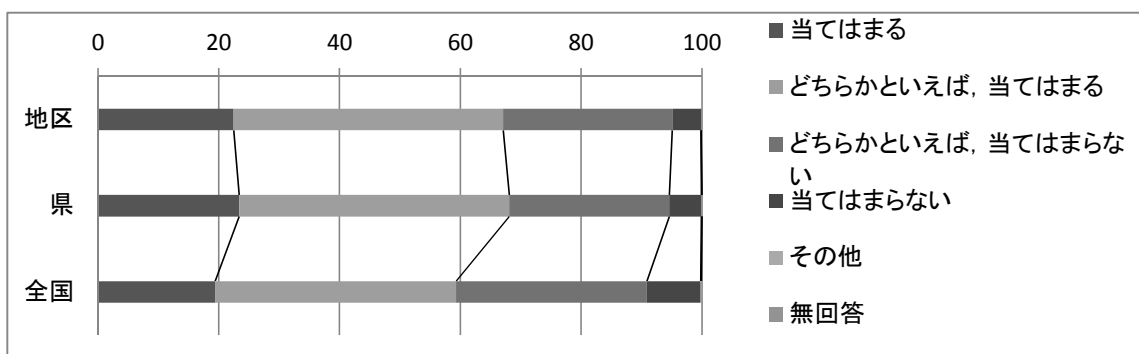
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	36.3	40.9	17.6	5.0					0.1	0.0
県	38.6	37.8	18.0	5.6					0.1	0.0
全国	38.9	36.4	18.7	5.8					0.0	0.1



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	22.5	44.6	28.0	4.8					0.0	0.0
県	23.4	44.7	26.5	5.3					0.0	0.1
全国	19.4	39.9	31.6	8.9					0.0	0.1



授業のまとめについては、小学校では全国と同じような状況にあり、中学校では、全国よりもよい状況にあることが分かる。しかし、「どちらかといえば当てはまらない」を含めると、まとめを行っているという意識のない児童生徒が小学校で2割程度、中学校で3割程度いることも分かる。



児童生徒が授業の振り返りをとおして、「今日の授業ではこれを学習した」と明確に自覚できるようなまとめの工夫が必要である。

本地区の学校における授業等に関する実態

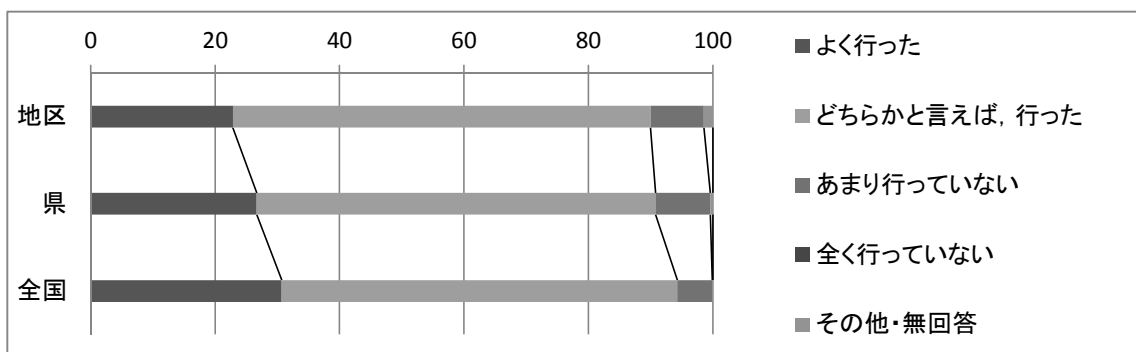
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

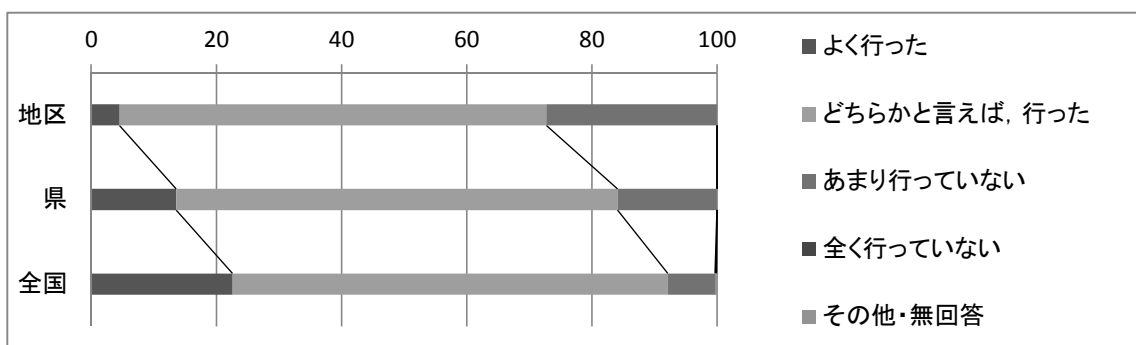
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	22.9	67.1	8.6	0.0						1.4
県	26.7	64.1	8.8	0.0						0.4
全国	30.7	63.6	5.6	0.0						0.1



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	4.5	68.2	27.3	0.0						0.0
県	13.6	70.5	15.9	0.0						0.0
全国	22.6	69.5	7.6	0.0						0.2



小・中学校ともに児童生徒の考えを引き出したり、思考を深めたりするための発問や指導の工夫を行っている学校の割合は、全国・県よりも低い。特に中学校においては、「どちらかと言えば行った」まで含めても、全国平均を大きく下回っている。



児童生徒が自ら考え活動する時間の確保と活動内容の工夫や、児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問や指導の在り方について、全教科等、全学年で研究し、共通実践することが大切である。

本地区の学校における授業等に関する実態

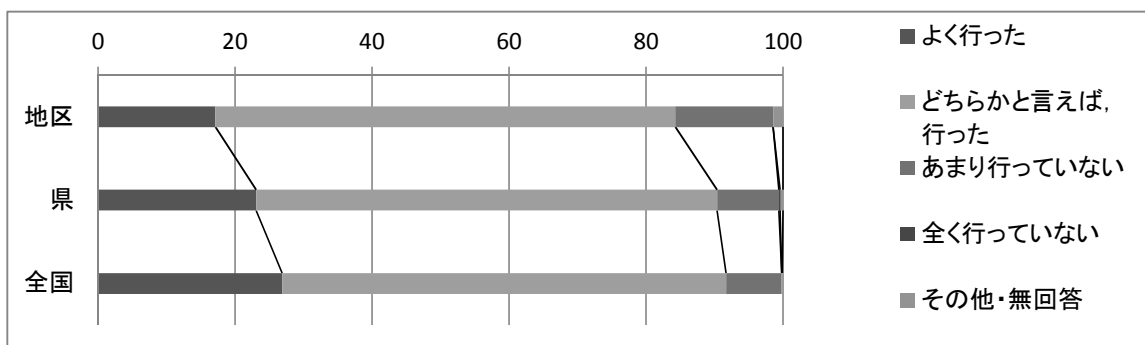
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

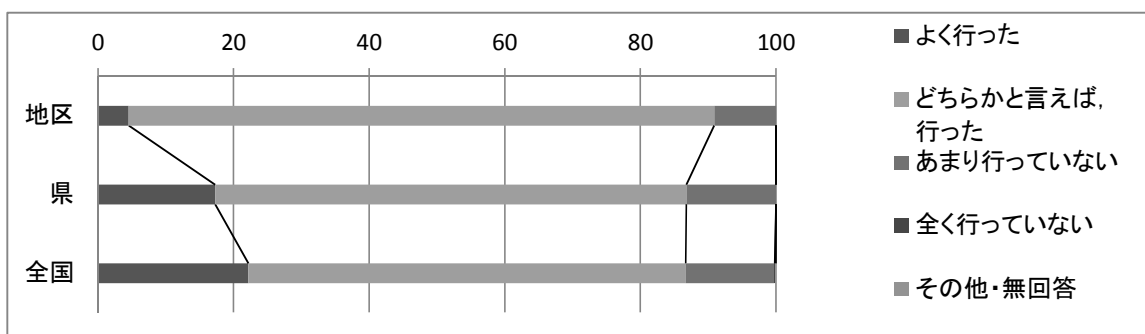
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	17.1	67.1	14.3	0.0						1.4
県	23.1	67.3	9.0	0.2						0.4
全国	26.9	64.8	8.1	0.0						0.1



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	4.5	86.4	9.1	0.0						0.0
県	17.3	69.5	13.2	0.0						0.0
全国	22.2	64.5	13.1	0.1						0.1



小学校では、「どちらかといえば、当てはまる」まで含めても全国・県と比較すると大幅にその割合が少ない。中学校では、「当てはまる」と回答した学校が極端に少ない。ただし、「どちらかといえば当てはまる」まで含めると全国・県を上回る。



児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める有効な手立てとして、言語活動を指導計画に位置付け、単元の中で計画的・継続的に取り入れることを全校で共通理解し、全教科等で意識的に取り組むことが大切である。

本地区の学校における授業等に関する実態

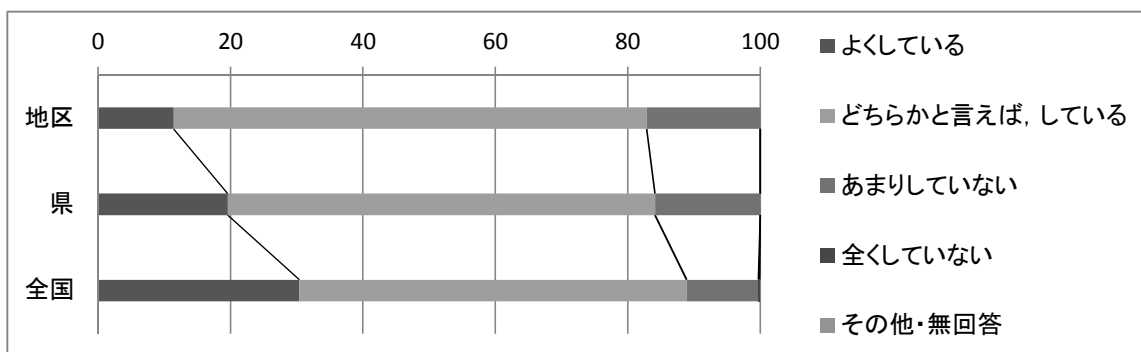
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

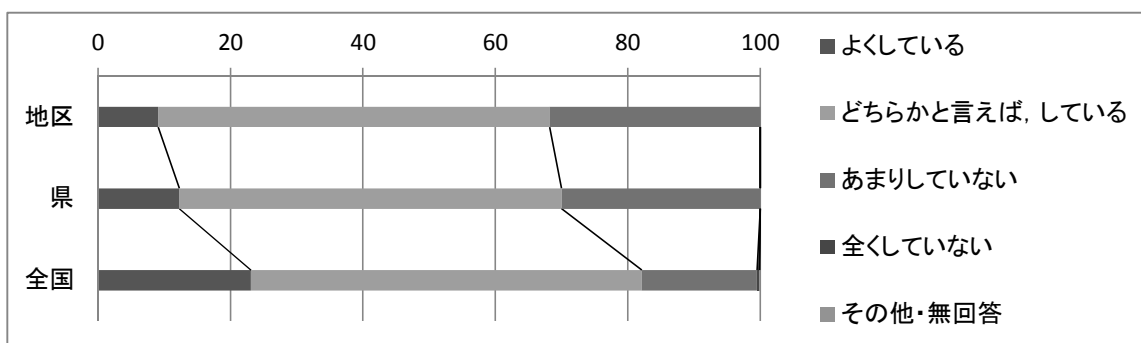
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	11.4	71.4	17.1	0.0						0.0
県	19.6	64.5	15.9	0.0						0.0
全国	30.4	58.5	10.8	0.2						0.0



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	9.1	59.1	31.8	0.0						0.0
県	12.3	57.7	30.0	0.0						0.0
全国	23.1	59.0	17.4	0.3						0.1



小・中学校ともに言語活動に重点をおいた指導計を作成している学校の割合は、全国・県よりも低い。特に中学校においては、「どちらかと言えばしている」まで含めても、全国平均を大きく下回っている。



児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める有効な手立てとして、言語活動を指導計画に位置付け、単元の中で計画的・継続的に取り入れることを全校で共通理解し、全教科等で意識的に取り組むことが大切である。

本地区の学校における授業等に関する実態

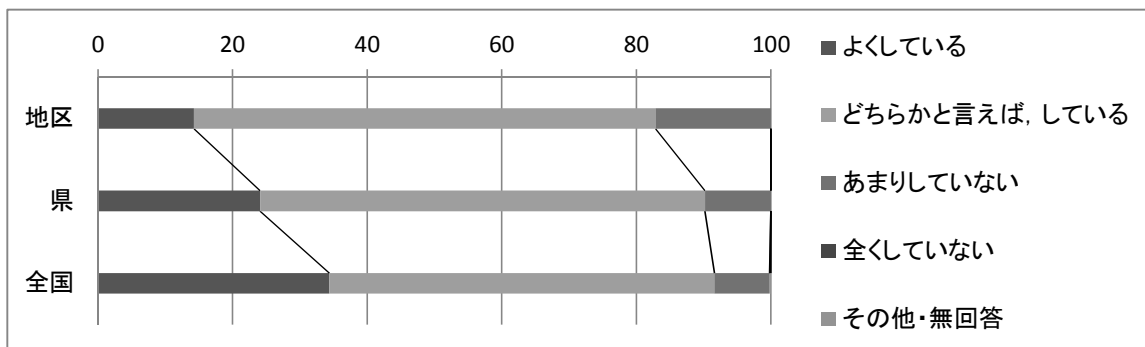
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

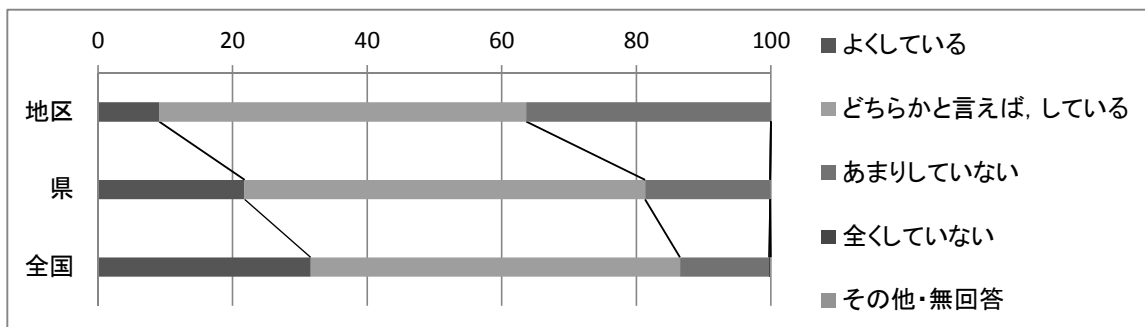
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	14.3	68.6	17.1	0.0						0.0
県	24.1	66.1	9.8	0.0						0.0
全国	34.4	57.2	8.2	0.1						0.1



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	9.1	54.5	36.4	0.0						0.0
県	21.8	59.5	18.6	0.0						0.0
全国	31.6	54.9	13.2	0.2						0.1



小・中学校ともに全教科等で言語活動に取り組んでいる学校の割合は、全国・県よりも低い。特に中学校においては、「どちらかと言えばしている」まで含めても、全国平均を大きく下回っている。



児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める有効な手立てとして、言語活動を指導計画に位置付け、単元の中で計画的・継続的に取り入れることを全校で共通理解し、全教科等で意識的に取り組むことが大切である。

本地区の学校における授業等に関する実態

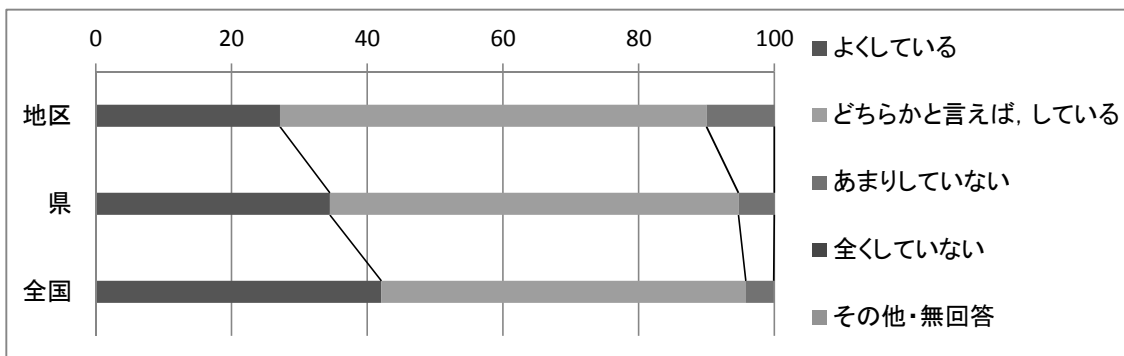
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

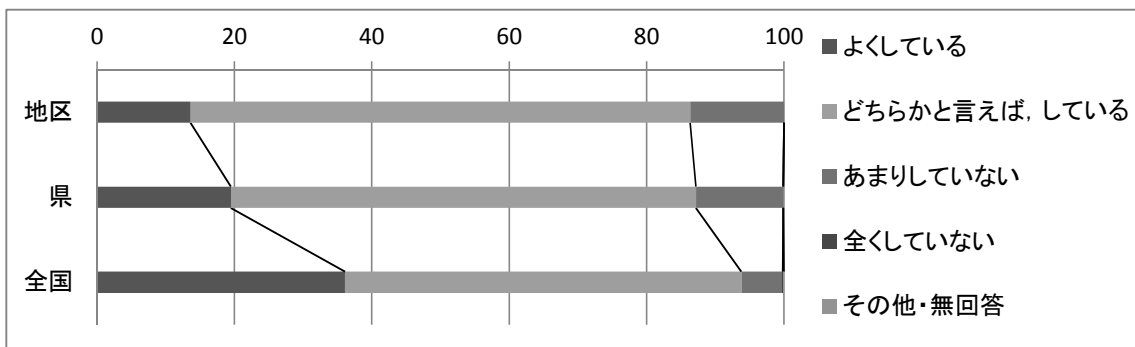
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	27.1	62.9	10.0	0.0						0.0
県	34.5	60.2	5.3	0.0						0.0
全国	42.1	53.7	4.1	0.0						0.0



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	13.6	72.7	13.6	0.0						0.0
県	19.5	67.7	12.7	0.0						0.0
全国	36.1	57.7	6.0	0.1						0.1



小・中学校ともに「よく協力し合っている」と回答した学校の割合は、全国・県平均を大きく下回っている。「どちらかと言えばしている」を含めても、全国平均より低い状況である。



個々の教職員の指導力向上とともに、教職員同士が協力し合い、学力向上に取り組めるような学校としての組織的な態勢づくりの更なる強化が必要である。

本地区の学校における授業等に関する実態

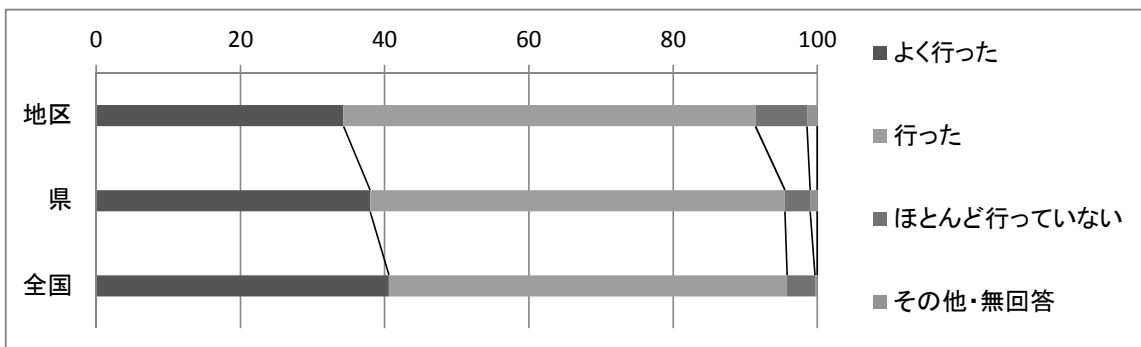
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

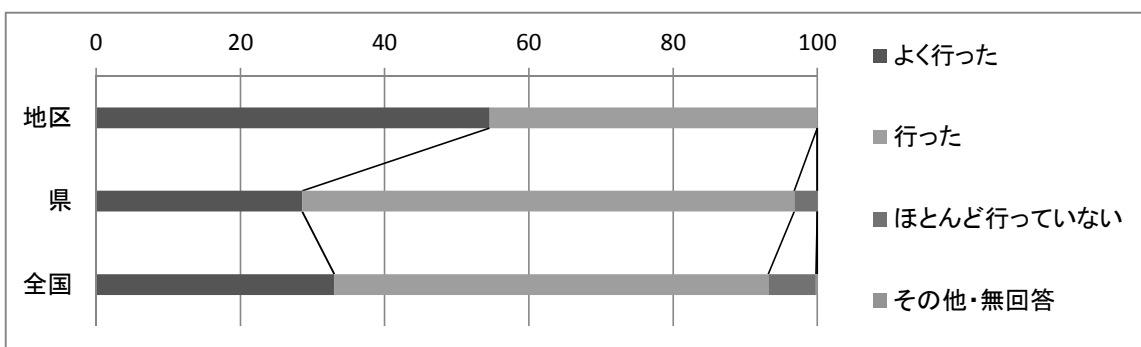
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	34.3	57.1	7.1							1.4
県	38.0	57.5	3.5							1.0
全国	40.6	55.2	3.9							0.3



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	54.5	45.5	0.0							0.0
県	28.6	68.2	3.2							0.0
全国	33.0	60.2	6.6							0.2



自校の分析結果の活用については、小学校では、全国・県と比較すると、まだ十分とは言えない。中学校では、全国・県を大きく上回る活用が図られており、そのことが学力向上に生かされていることがうかがえる。



各種学力調査結果の分析を通して、自校の課題を明らかにし、全校で共有するとともに、具体的な解決策を策定し、共通実践に努めることが大切である。

本地区の学校における授業等に関する実態

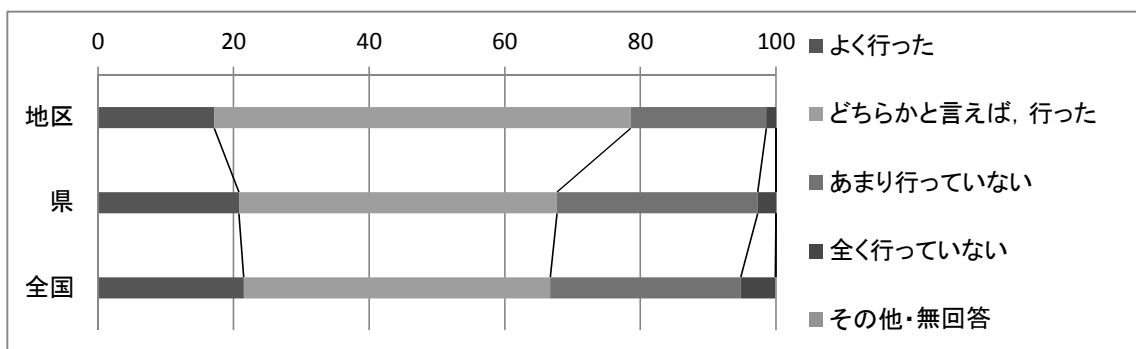
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

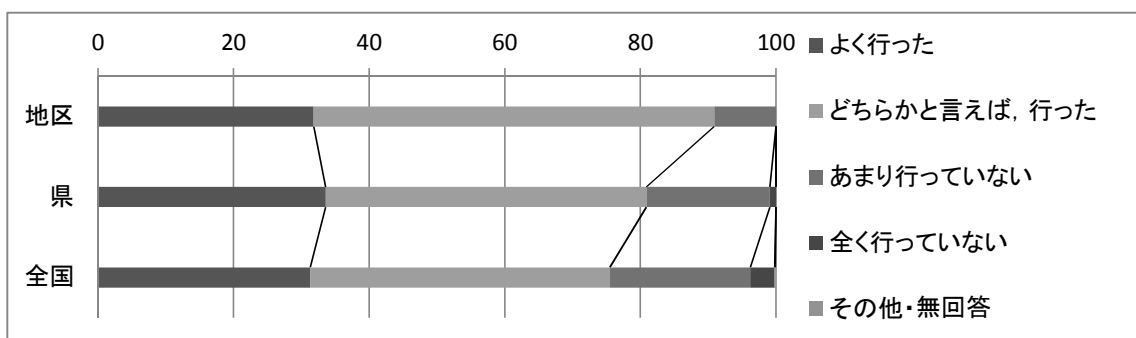
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	17.1	61.4	20.0	1.4						0.0
県	20.8	46.9	29.6	2.7						0.0
全国	21.5	45.2	28.1	5.1						0.1



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	31.8	59.1	9.1	0.0						0.0
県	33.6	47.3	18.2	0.9						0.0
全国	31.3	44.2	20.7	3.6						0.1



本地区の小中連携の状況は、「どちらかと言えば行った」まで含めると、全国・県を上回っている。



更なる連携を深め、児童生徒の学習に関する共通実践事項の見直しや、小中の教職員相互の授業参観等の共同研修の充実を図る必要がある。

本地区の学校における授業等に関する実態

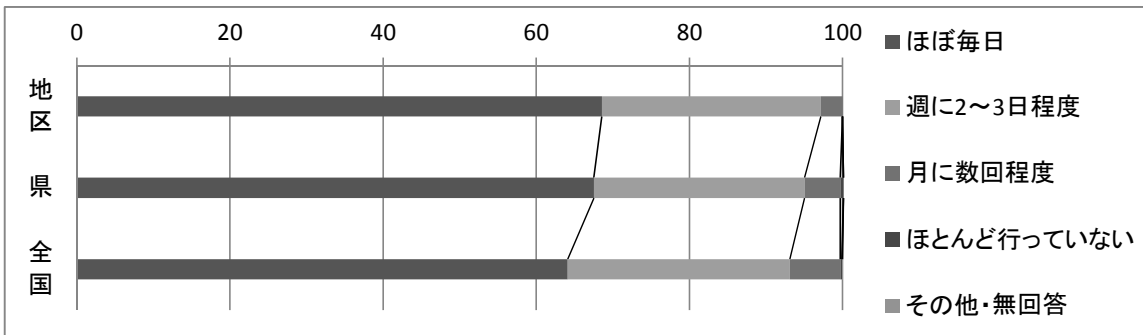
～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

【小学校】

※ その他には無回答も含む

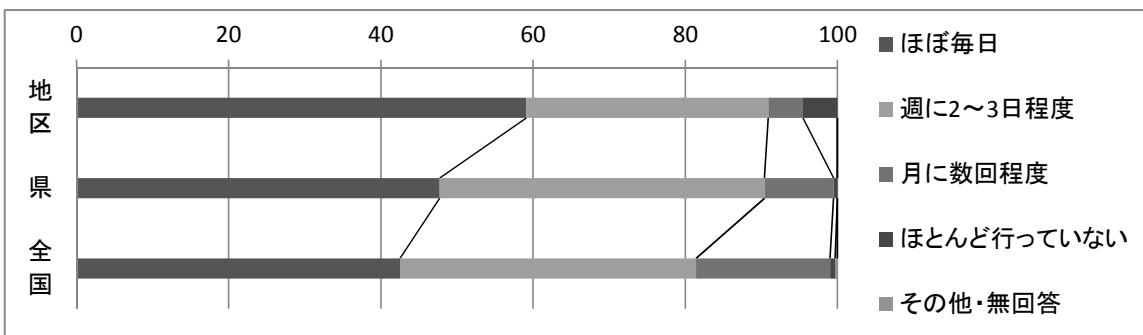
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	68.6	28.6	2.9	0.0						0.0
県	67.5	27.5	4.7	0.4						0.0
全国	64.1	29.0	6.6	0.2						0.1



【中学校】

※ その他には無回答も含む

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他
地区	59.1	31.8	4.5	4.5						0.0
県	47.7	42.7	9.1	0.5						0.0
全国	42.5	38.9	17.6	0.7						0.3



小・中学校ともに「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国・県平均を上回っており、特に中学校においてその傾向が顕著である。一方、中学校においては、「ほとんど行っていない」と回答した学校の割合も、全国・県平均を大きく上回っている状況もある。



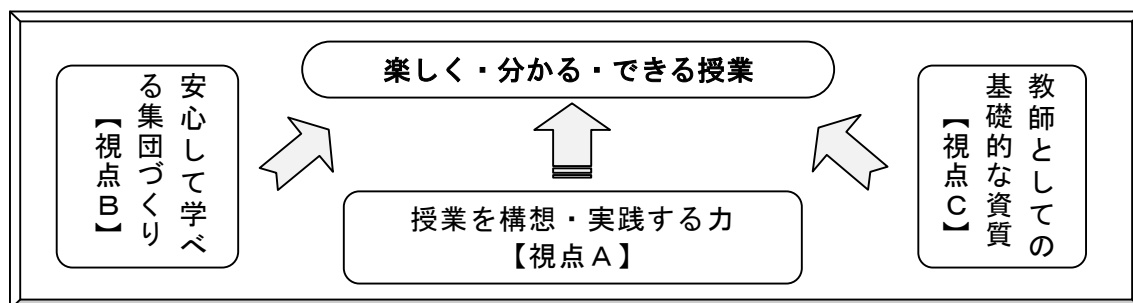
今後も管理職による授業参観を充実させ、個々の職員の課題の明確化と適切な指導助言に努めることが大切である。同時に、職員全体へのアプローチとして校内研修の更なる充実等に努めることも大切である。

始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト実施状況及び計画

実施日時 実施場所	主 内 容	作成・準備	
		評価問題作成	モデル授業構築
6月24日 (水) 14:00 16:45 始良・伊佐 地域振興局	【第1回プロジェクト研究会】 1 全体会 ○ 所長あいさつ及び講話 ○ 事業の概要説明・計画等の確認 2 教科等別分科会 ○ 研究の進め方の共通理解 ○ 評価問題に関する研究協議 ○ 評価問題作成に係る役割分担 ○ 次回の日程と内容の確認	6/24 協議 作成期間	START
8月7日 (金) 9:30 16:30 始良公民館	【第2回プロジェクト研究会】 1 全体会 ○ 全国教育課程説明会の内容伝達研修 ○ 質疑応答 2 教科等別分科会 ○ 評価問題作成に関する研究協議→修正 ○ モデル授業構築に関する研究協議→形式等の決定 ○ 次回の日程と内容の確認	8/7 協議・修正 修正期間 10/30 顧問へ提出	8/7 協議 作成期間
11月25日 (水) 14:00 16:45 始良・伊佐 地域振興局	【第3回プロジェクト研究会】 1 教科等別分科会 ○ 評価問題の最終校正→原稿完成(一次) ○ モデル授業構築に関する研究協議→修正 ○ 授業力向上研究会の準備 2 全体会 ○ 進捗状況等の確認 ○ 次回の日程と内容の確認	必要に応じて顧問から修正の連絡 11/25 原稿完成(一次) 修正期間 12/10 事務所提出(最終) 評価問題完成	11/25 協議・修正 修正期間 12/10 顧問へ提出
12月17日 (木) 14:00 16:45 始良・伊佐 地域振興局	【第4回プロジェクト研究会】 1 教科等別分科会 ○ モデル授業構築に関する研究協議→原稿完成(一次) ○ 授業力向上研究会の準備 ○ リハーサル 2 全体会 ○ 進捗状況等の確認 ○ 授業力向上研究会の日程と内容の確認	授業力向上研究会に向けての諸準備 ※ 詳細は第3回プロジェクト研究会にて連絡	必要に応じて顧問から修正の連絡 12/17 原稿完成(一次) 12/24 事務所提出(最終) モデル授業完成
1月20日 (水) 14:00 16:45 始良公民館	【始良・伊佐スキルアップセミナーPart 3】 1 全体会Ⅰ ○ 開会行事 2 教科等別分科会 ○ プロジェクト推進員による研究発表 ○ 質疑応答 3 全体会Ⅱ ○ 閉会行事	1/29 義務教育課への提出 評価問題 ⇒学力向上支援 Web システムへ 評価問題&モデル授業 ⇒地区教育実践事例集へ (3月上旬) GOAL!	

『教師をやる気にさせる声掛け集』概要

管理職が授業参観等で、課題であると思われる授業場面に出会ったとき、授業者にどのようなアドバイスをして授業改善を図ればよいか、その助言を「声掛け集」としてまとめたもの。



3視点による授業

- 「A：授業を構想・実践する力」，「B：安心して学べる集団づくり」，「C：教師としての基礎的な資質」の三つの視点から授業を見つめ直し，改善を図る。
- 三つの視点に沿って，授業改善の必要性を感じる場面を具体的に想定し，各場面ごとに「教師をやる気にさせる声掛け」を段階的に整理する。

《 気になる授業の3つの視点と11の場面 》

視点	授業場面	気になる状況
視点A 授業を 構想・実践する力	① 板書	構造的になっていないなど、板書に課題がある。
	② 学習目標・発問・指示	学習目標の提示や発問・指示に課題がある。
	③ 授業構想・実践全般	授業構想・実践全般(思考力・表現力の育成教科書の使い方，時間配分等)に課題がある。
視点B 安心して学べる 集団づくり	④ 自己肯定感	自己肯定感が低い児童生徒がいる。
	⑤ 共感的な人間関係	児童生徒同士の共感的な人間関係が確立していない。
	⑥ 自己決定の場	児童生徒に自己決定する場がない。
	⑦ 教師と生徒の信頼関係	児童生徒と教師の信頼関係が確立していない。
	⑧ 学習のしつけ (着席・学び方等)	学習のしつけ(着席・学び方等)が十分でない児童生徒がいる。
視点C 教師としての 基礎的な 資質	⑨ 教師の表現力 (表情・声量等)	教師の表現力(表情・声量等)に課題がある。
	⑩ 教師自身の知識・技能等	教師自身の知識・技能や，授業に臨む姿勢に課題がある。
	⑪ 子ども理解	児童生徒に対する理解に課題がある。

各授業場面での「声掛け例」は，授業者へのアプローチの手順として，二段階で構成されている。

- 段階1** 授業場面での課題を授業者とともに受け止め，課題を共有する段階での声掛け。
- 段階2** 課題解決のため，意欲的に課題解決に向かわせる具体的な解決方法を含んだ声掛け。

始良・伊佐地区教育行政の基本理念

「緑の教育」

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心

緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力

緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体